

2. 第6期業務における主な取組

※以下、「地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業」を「PF事業」と表記。
※集計結果や数値、取組状況等はいずれも2023年11月末時点で整理。

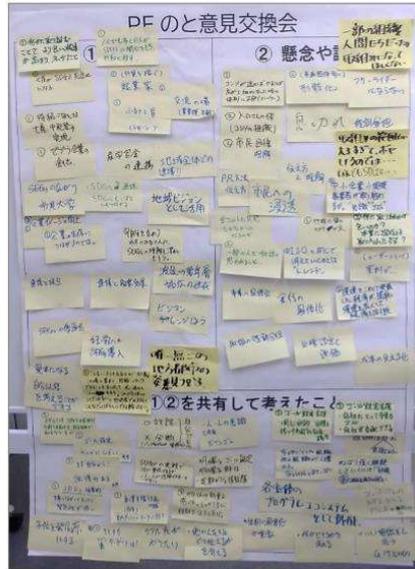
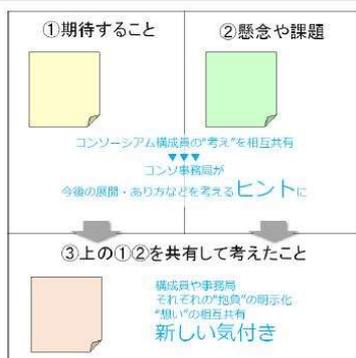
5

2. 第6期における主な取組

【方針1-①】地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援の個別対応

6

地域循環共生圏づくりPF構築事業支援：ななおSDGsスイッチ



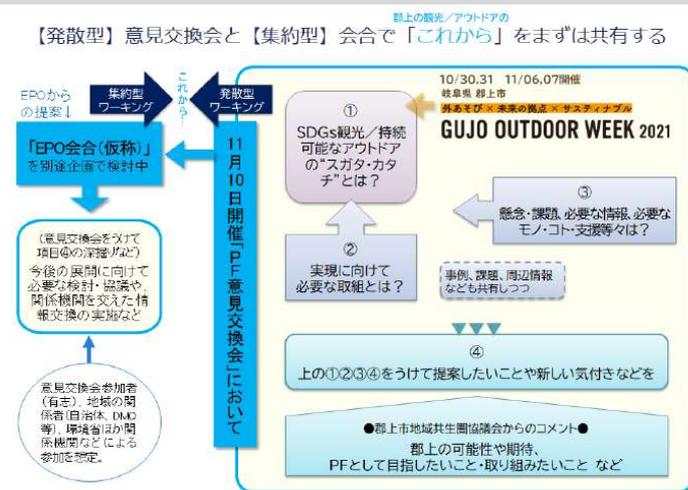
- 2021年9月にPF事業採択団体・ななおSDGsスイッチ(当時:のと共栄信用金庫)の関係者が集まる「意見交換会」を開催。
- EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援し、PF組織の設立、及びその後の継続に向けた期待・課題等をディスカッション。

【実施結果】

- コンソーシアム関係者が抱いている懸念・課題を明確化し、関係者間で共有することができた。
- この会で提示された意見等を参考にして、事務局はななおSDGsスイッチ設立と、その後のプロジェクト展開の計画づくりを行い、協力・連携体制のさらなる強化を図った。

9

地域循環共生圏づくりPF構築事業支援：郡上市地域共生圏協議会



- 2021年11月にPF事業採択団体:郡上市地域共生圏協議会の関係者による「意見交換会」を実施し、EPO中部が企画・運営(ファシリテーション)を支援。
- アウトドア事業者が目指している観光のあり方を明確化し、次ステップで取り組むべきローカルSDGs事業についての議論を行った。

【実施結果】

- 関係者それぞれが多様な地域課題を抱きつつ、その解決策としてのローカルSDGs事業のアイデアが多く抽出された。
- この意見交換会後、市内アウトドア事業者のコンセプト「100年先も郡上に遊べる川と雪山を残すために」をもとに、新たにJ-クレジットの活用展開の可能性を考える勉強会も実施した。

10

EPOが実施した地域循環共生圏WSプログラムをウェブサイトで公開

EPO中部のワークショップ・プログラム

ご活用ください！

EPO中部は、地域循環共生圏づくり（ローカルSDGs実践）に切り盛り地域/団体を支援するため、様々なワークショップやセミナー、シンポジウムやワークショップを実施・実施しています。

ここではEPO中部がサポートしている地域/団体のワークショップのプログラムを掲載したツールシートを公開しています。

ここでは掲載しているツールシートを参考に、各地にワークショップを開催することができます。

※EPO中部は、団体の活動や事業の公開プログラムとして公開する際、活動/ワークショップの名称を公開していません。

公開プログラム

- 1. SDGs実践セミナー/ワークショップ
- 2. 「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

このワークショップは、2022年1月開催した地域循環共生圏づくり推進事業の一環として実施したワークショップです。

このワークショップは、地域の未来ビジョンを描くためのワークショップです。

このワークショップは、地域の未来ビジョンを描くためのワークショップです。

ワークシートの概要

① 自己紹介(参加した理由・背景など)

② 個人シートへ記入する(自分の中の想いの整理)

③ 地域要素(地域課題・地域資源、地域に必要な取組等)を考える・提示する

④ 「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

使用するツール：ワークショップシート

ワークショップシートは、地域の未来ビジョンを描くためのツールです。

ワークショップシートは、地域の未来ビジョンを描くためのツールです。

ワークショップシートは、地域の未来ビジョンを描くためのツールです。

ワークシートの概要

① 自己紹介(参加した理由・背景など)

② 個人シートへ記入する(自分の中の想いの整理)

③ 地域要素(地域課題・地域資源、地域に必要な取組等)を考える・提示する

④ 「なりたい地域の未来ビジョン」ディスカッション

- 主催する地域循環共生圏をテーマにしたWS(ワークショップ)のプログラムやツール・シート等をどの地域や団体等でも使用できるように一般化する整理を行い、ウェブサイトの「お役立ちコーナー」で公開した。

- 【実施結果】**
- 公開後、温暖化防止活動推進員、環境カウンセラー等から活用方法や使用許可等についての問合せがあった。
 - ここで公開したプログラムは、その後の主催イベントでも活用している。

その他) EPO中部ウェブサイトの充実化 例) お役立ちツールコーナー

<https://www.epo-chubu.jp/tool>

活動見える化チャート事例の蓄積(追加公開)

EPO中部が支援した取組、連携・協力した取組などを「活動見える化プログラム」にして、地域側にフィードバック。同時に、ウェブサイトにも掲載・公開。

お役立ちツール

EPO中部のワークショッププログラム

地域循環共生圏づくり(ローカルSDGs実践)に切り盛り地域/団体を対象に、EPO中部が実施したワークショップのプログラムを紹介・公開しています。

活動見える化プログラム

EPO中部では、協働取組の支援のための「活動見える化プログラム」を構築し、地域活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化する分析ツールとして活用しています。

SDGsチェックリスト

SDGsチェックリストは事業や活動を77ゴールと関連づける「実行書」のためのツールで、中部地方ESD活動支援センター(EPO中部)のオリジナル・ツールです。

EPO中部・協働コーディネーターのリスト

協働取組の促進には、協働コーディネーターの存在が不可欠とされています。EPO中部は地域の人材である協働コーディネーターの活用促進に努めています。

「SDGs指標物語」の活用・公開

活動見える化チャートと「SDGs指標物語」の連動等による活用方法について検討予定

中部エリアで整備されている出展可能な環境展イベントのリストを作成しました。活動・取組をPRする場・機会があるが場などに活用されています。

EPO中部関連業務報告書アーカイブ

平成17年度(2005年度)以降にEPO中部の関連業務において作成された報告書を公開しています。

ツールを活用したWSの実施方法(プログラム)等も公開

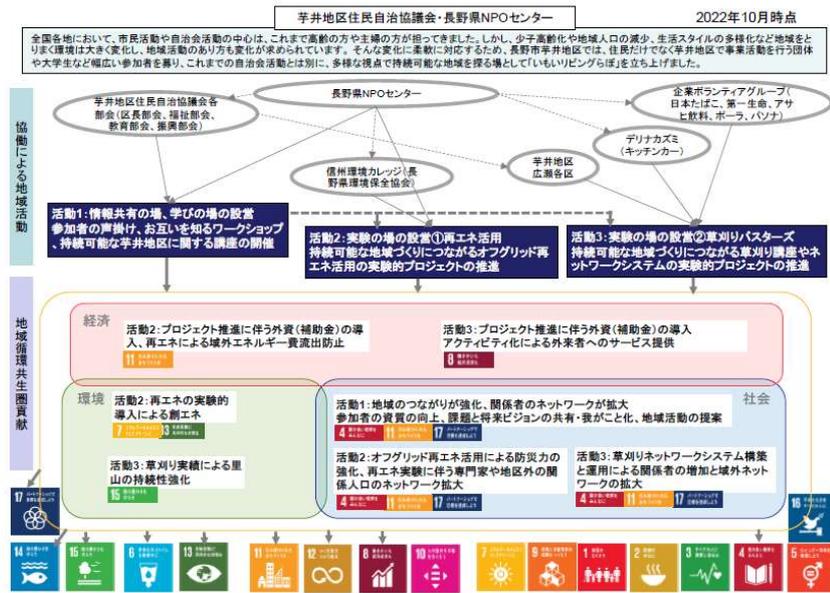
主催セミナーのほか、ワークショップ、ブース出展時等で活用

その他) 前期・第5期構築の活動見える化プログラム事例も継続して作成・公開

長野県長野市芋井地区
「芋井リビングラボ」

- 取組分析の共有
- 活動指標の選定

2月開催の芋井地区勉強会にて活用



活動1 情報共有の場、学びの場の設営	→	情報共有や学びの場の参加人数(人)
活動2 実験の場の設営①再エネ活用	→	課題解決の地域活動実験的プロジェクト提案数(件)
活動3 実験の場の設営②草刈りバスターズ	→	再エネ実験設置数(ヶ所)、活用した再エネ量(kWh)
		実験関係者数(人)、波及個所数(ヶ所)

15

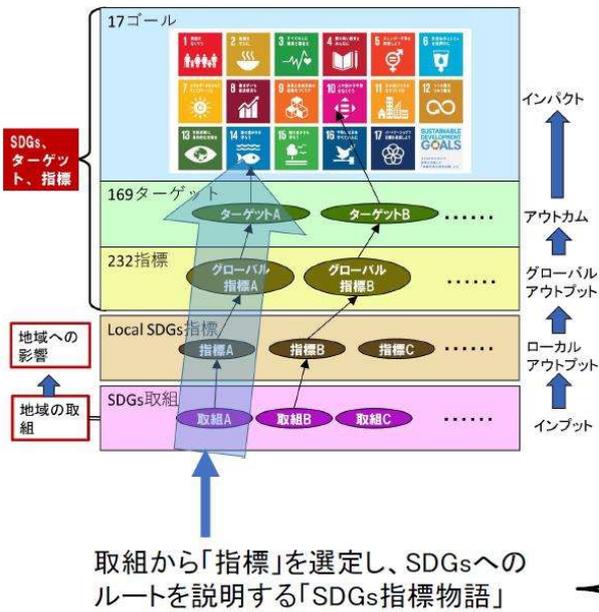
2. 第6期における主な取組

【方針2】独自の地域SDGs評価機能の構築

16

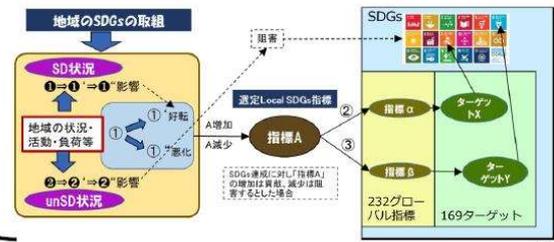
SDGs指標物語を構築：試行2事例のチャートを作成

地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える



「地域の取組」と「指標A」のSDGs指標物語(例)

指標AはゴールNo.〇、〇、〇の達成に寄与するLocal SDGs指標として選定した。Aは①の貢献度を表す。
 指標Aが増加するとグローバル指標αと指標βに②、③から影響しターゲットXとターゲットYの達成に貢献する。
 指標Aの増加のための地域のSDGs取組は、①という持続可能性に貢献するSD状況が発生し、①の影響により①につながる。一方②の持続可能性を阻害するunSD状況が発生する可能性が考えられ、②の影響により②につながり、ゴールNo.〇について阻害が起こる可能性があるため、そうならない取組が必要となる。

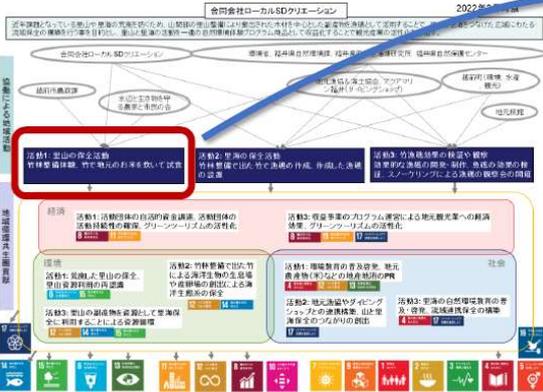


活動見える化プログラムに接続するSDGs指標物語



- 活動見える化PとSDGs指標物語*: 活動の分析内容を考慮して指標を選定

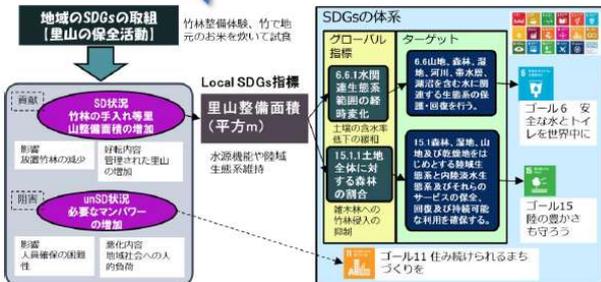
「活動見える化プログラム」で活動内容を可視化



活動ごとに「指標」を選定

活動名称	活動1 里山の保全活動	活動2 里海の保全活動	活動3 竹漁礁効果検証や観察会など体験プログラム化
選定指標	里山整備面積 (平方m)	漁礁の設置数 (箇所)	観察会等収益事業プログラム運用売上(円)

選定した「指標」ごとにSDGsとの関わりを示す指標物語を作成



*引用 原理史,平川翼,川村真也,杉田暁,伊藤彦彦 (2023): 地域活動推進のためのSDGs指標物語, 環境共生, 39巻1号, p.66-76 (中部大学問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究IDEAS202014助成)

主催セミナーで「SDGs指標物語」等独自ツールを紹介

自治体職員向けローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー

ローカルSDGsの指標と達成度評価

～活用可能なサイト/ツールの紹介とトライアル(試してみてください!)～

日時: 11月6日(月)13:30～16:30
会場: ウィンクあいら 12階+会議室1201
(名古屋市中区新大塚4丁目4-6-6 名古屋駅前丸の内ビルディング12階1201号室)

対象: 自治体職員 定員: 50人(参加無料)

参加方法: 参加申込フォーム: 下記URL
https://forms.gle/vsLPMuGZ7hPpF79
右のQRコードからも申込可能です。
申込フォームは(EPO事務局)からも申込できます。

第1部
・ご紹介、情報提供
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について

第2部
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について
・EPO中核の紹介と各自の趣意について

主催: 環境省 中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

[事例を見る化]
EPO中部による「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」

2023年11月6日



環境省EPO中部・中部地方EPO活動支援センター
中部大学工学部環境学系
EPO事務局 環境(中核) 担当

- 2023年11月開催のSDGs指標と達成度をテーマにした自治体職員向けセミナーで、事例の見える化ツールとして「SDGs指標物語」と「活動見える化プログラム」を紹介した。

【実施結果】

- 基調講演講師や参加者から、地域単位のSDGs指標・達成度に対し、プロジェクト単位の指標の捉え方の重要性を認識することができた、ほかの見える化チャートも見てみたいなどの声が寄せられた。

地域の取組からボトムアップ的に指標とSDGsとの関連を考える



「SDGs指標物語」の意義

SDGsの取組における評価や現状把握に際し、「SDGs指標物語」は「指標」から見た取組のSDGsにおける意義を説明する有効な「枠組み」となり得る。
地域づくりにおいて評価の指標の内容や意義を共有する際の説明と理解に有用。

「SDGs指標物語」の課題

SDGs指標物語の作成における課題
・作成に時間がかかる
・SDGsの知識を有した関連性を考察するため、ある程度の熟練が必要
SDGs指標物語の活用における課題
・複雑に内容についての理解しやすい説明方法の確立

「SDGs指標物語」の展望

○「SDGs」とは異なる様々な目標についての「指標物語」の活用
○既存の指標についての持続可能な取組から派生し「活用」への活用
○活動の振り返りや共有、相互評価を行う場面で「評価活動」への活用



2. 第6期における主な取組

【方針3-i】EPO機能の強化：金融機関や経済団体等との関係構築

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度三重県尾鷲市開催

- 2023年1月に、三重県尾鷲市で、令和4年度おわせSEA モデル説明交流会「企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて」を開催。
- PF事業2019-2020採択団体・おわせSEAモデル協議会の関連プロジェクトと企業・金融機関等との意見交換を実施。
- 企業・金融機関等63社、参加者数128名が参加した。

【実施結果】

- 想定を上回る企業・金融機関が参加し、国・県の関係部署全てからの出席があり、プロジェクトへの注目度をはかることができた。
- その後、プロジェクトの変更等もあり、具体的なマッチング報告はないが、新しい地域産業創出の第一歩につながるはずとの期待の声を尾鷲市側からいただいた。



プログラム 1/2

1. ごあいさつ
 - 尾鷲市長 加藤 千速
 - 環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長 佐々木 真二郎
2. おわせSEAプロジェクトについて (15分)
 - 尾鷲市政策調整課 調整監 濱田一多朗
3. 協力機関からの応援メッセージ (10分)
 - 財務省 東海財務局 津財務事務所長 斎藤 誉 氏
 - 国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所長 日置 幸司 氏

04

おわせSEAモデル協議会

プログラム 2/2

4. プロジェクト・セッション (各プロジェクト5分)
 - セッションの進め方 説明：EPO中部
 - ① 尾鷲青色の森キャンプ場(仮)について
 - 株式会社フィニティ52代表取締役 浜野 五十二 氏
 - ② 親子3世代が憩う総合公園整備について
 - 尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
 - ③ 環境にやさしい陸上養殖について
 - 尾鷲商工会議所プロジェクト室長 山本 浩之 氏
 - ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について
 - 速水林業 代表 速水 亨 氏
- 質疑応答 (60分) 進行：EPO中部
5. フリートークタイム (プロジェクト担当者との情報交換)
6. 閉会 (16:30予定)

05

おわせSEAモデル協議会

21

地域循環共生圏PS基盤強化会合：2022年度福井県丹南エリア開催

プログラム案

- 白山さんちランチ会合(会費制/自由参加) 12:00~13:00
中部環境パートナーシップ(EPO中部)による会合の趣旨説明
- 13:30~情報交換会 ※時間配分…プログラム1~5:各15分(計75分)+プログラム6:80分+休憩15分=計150分
- 1. はじめに/「地域循環共生圏」(PF事業)についての概説
環境省中部地方環境事務所環境対策課
- 2. PF事業による取組紹介①:産官学金コンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」による創業支援等の取組(仮)
ななおSDGsスイッチ 入口 翔氏【確定】
(七尾商工会議所SDGsプロジェクト推進室室長 兼 のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長)
- 3. PF事業による取組紹介②:丹南における里山整備副産物を利用した海洋資源保全(仮)
合同会社ローカルSDクリエーション代表 三田村 佳政氏【確定】
- 4. 地域ビジネス創出を目指した取組紹介:日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援(仮)
日本政策金融公庫
- 5. 地域の取組紹介:地域資源を活用した農家レストランやエコツアー(仮)
農家レストラン・白山さんち 森 和恵氏(※別の方になる可能性あり)
(休憩/アイトタイム)
- 6. 意見交換・情報交換など



- 2023年2月に、PF丹南を含む、福井県丹南地区の活動団体と経済団体・金融機関の交流・情報交換会「里山里海ワイズユース×地域ビジネス情報交換会」を、地域活動団体が経営する農家レストラン「白山さんち」を会場にして開催。
- 地域活動者や、地域ビジネスの創業支援を展開するPF七尾、ソーシャルビジネス支援を展開している日本政策金融公庫武生支店、武生商工会議所などが参加し、ローカルSDGsビジネスについてのディスカッションを実施した。

【実施結果】

- 取組発表とディスカッションにより、環境活動をビジネスとして展開するにあたっての課題感を共有することができた。
- また、出席いただいた金融機関・商工会議所から、経済的分野からの指摘や、これまで知らなかった制度・事例の存在など、今までにはなかった助言を得ることができた。
- 出席した地域団体側からも、なぜ地域ビジネスとしての展開が重要なのか初めて理解できたとのコメントをいただいた。

22

自然資本活用会合：2023年度信州の森・里山フォーラム（開催予定）

信州の森・里山フォーラム

地域資源としての
森林・里山の価値向上について考える

2023年12月19日(火) 13:30~16:00

プログラム(予定) ※要予約となります。

■ 情報提供 本フォーラムの趣旨について 講師者 中部地方連携事務所
信州における森林経営・森林サービスの現状と今後の取組への期待について (仮)
※取材員 中部森林経営課
森林の利活用と交流人口の増加を目指して 長野県林業部 信州の木活用課

■ 森づくり・里山経営の取組紹介
産学リサーチタウン「森科もりくらし」 産学リサーチ(株) 産学企画課 藤田 幸太 氏
地産産社 協賛会社と共した森林価値を高める多角的な事業 株式会社ドミナジ 齋藤 高二 氏
森林・里山の課題の解決と新たな価値創出 フェリスアグレン 代表 余藤 友康 氏
産学産社 協賛産社の実現に向けた「水」にかかわる新たなチャレンジ
中部電力株式会社 新設環境本部 林業・FP事業推進室 川口 雅哉 氏

■ ディスカッション
森林・里山の利活用と価値の向上について 進行：連携部 中部地方連携事務所

参加方法

参加方法は次の①②③のいずれかとなります。事前申込フォームのいずれかを選択してください。

① 会場参加 長野市生涯学習センター第1・第2学習室 (14時~16時30分)
〒400-0001 長野県長野市1-1-1 1115号室 1115号室 1115号室
Googleマップ: <https://maps.app.goo.gl/9Rk21N89V6s4R9>

② ZOOM参加 [詳細をのぞきたい方は、① 会場参加] ではなく② ZOOM参加もぜひお楽しみください。

③ YouTube視聴

申込方法

※事前申込フォームから申し込みください。

申込はこちら
<https://forms.gle/9Rk21N89V6s4R9>

EPO連携のウェブサイトからも申し込み可能です。
[EPO連携] 検索

主催：信州森林総合推進事務所・信濃県・パートナーシップオフィス(EPO中部)
共催：中部地方連携事務所

- 2023年12月に信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催予定である。
- 森・里山づくりから地域づくりを考えるフォーラムとして、林業者ではないが森づくりに関わっている事業者等が登壇し、取組発表やディスカッションを行う予定である。
- 登壇者との事前打合せ等では、それぞれの森・里山の価値向上を地域の付加価値創出につなげる話題提供等があり、非常に示唆に富んだフォーラムになるものと期待をしている。

23

2. 第6期における主な取組

【方針3-ii】EPO機能の強化：協働コーディネーターとの関係強化

24

協働コーディネーターとの連携実践活動：長野県長野市

信州ローカルSDGs 勉強会
災害に強い地域づくり

ジモトをいつまでも暮らしやすい地域にするために！

参加費無料
先着30名様
(オンライン参加あり)

【日時】 11月5日(土) 13:00~15:00
【会場】 長野市立芋井小学校体育館
(長野市桜600)

災害に強い地域をつくるため、楽しく取り組む防災・減災活動と太陽光やバイオマスなど、身近な再生エネルギーを平時から暮らしに取り入れるライフスタイルについて、参加者みんなで考えます。

【事例発表】

- アクティビティから防災を学ぶ
- 被災経験からの防災キャンプ ~ 豊野地区住民自治協議会
- こどもたち自身が身を守るように~真鳥だんごむしカフェ
- オフグリッドを生活に取り入れる
- 里山での小さな実践~ 芋井地区住民自治協議会

グループでの学びのセッションもあり
今日からできるアクションを考えます

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス
(特非)長野県NPOセンター
協力：長野市立芋井小学校
(特非)長野県NPOセンター

お問い合わせ先 026-269-0015 info@npo-nagano.org

QRコード

- 2022年11月に長野県長野市で、協働コーディネーター・山室氏が所属する長野県NPOセンターとの共催で、信州ローカルSDGs勉強会「災害に強い地域づくり」を開催。
- ローカルSDGsと災害・防災・減災の地域づくりをテーマにした勉強会を実施し、35名の会場参加があった。

【開催結果】

- 参加者からは、座学のみでなく、実践的なアクティビティも取り入れたプログラムで学びが多かったとの声が寄せられた。
- 災害対策をテーマにしつつ、地域による備えが防災のみにとどまらず、再エネの導入・活用にもつながることの学びが得られ、ローカルSDGsの同時解決、統合的な取組を実感する機会となっていた。



25

協働コーディネーター情報交換会 2023年9月実施

実施内容の詳細

プログラム	時間	協働コーディネーターの活動紹介等
13:30~16:00 (150分)		
1 改めて自己紹介と近況報告	40分 (5分×8人)	● 【全員】自己紹介・近況報告 ※ 作成いただいたパワーポイント「自己紹介と近況報告」はEPOウェブサイトの「協働コーディネーター」ページにも掲載させていただきます。
2 《話題提供1》 中部地方環境事務所から :情報提供・共有等	15分	● 中部地方環境事務所環境対策課長補佐 網野さんより
3 《話題提供2》 協働コーディネーターから :EPO連携事業の紹介	20分 (5分×3人)	● 【三田村さん】地域循環共生圏づくりPF構築事業の活動紹介 ● 【山室さん】協働促進業務(信州地域SDGs講座等)の紹介 =代理: EPO説明 ● 【塚さん】ESD学び合いプロジェクトの紹介
4 《話題提供3》EPO中部から :見える化P、SDGs指標物語等紹介	15分	● EPO中部 原より
休憩	10分	
5 質疑応答と意見交換	50分	
16:00~16:45 (予備/撤収45分)		
延長戦フリートークで意見交換のつづき(交流タイム予備時間)/事務局は後片付け等(17時施設厳守)		
16:45頃には懇親会会場へ移動		
17:00~19:00 (約120分) 懇親会		



- 2023年9月に、EPO中部・協働コーディネーター6名が出席して情報交換会を開催した。
- 近況報告のほか、それぞれの地域活動の取組状況と課題を共有したうえで、関係省庁や自治体など行政機関との連携・協力のあり方に焦点をあてた意見・情報交換が行われた。

【開催結果】

- 各コーディネーターの現状や今後の意向(特に環境省事業への応募の意向等)を把握することができた。
- 特に意見交換では、中部地方環境事務所担当官を交えて、行政機関との付き合い方のディスカッション/アドバイスが参考になった、刺激になったとの感想をいただいている。
- また、各コーディネーターがそれぞれの地域活動でどのような中間支援機能を果たしているか把握することができた。

26

参考) 第6期における協働コーディネーターとの主な連携展開

連携した協働コーディネーター	年度	連携業務の内容
■ 山室秀俊氏(長野県NPOセンター事務局長)	2021 2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> 長野県長野市等で地域循環共生圏づくりの普及啓発事業
■ 中島阿児氏(NPO法人 WACおばま理事長)	2021	<ul style="list-style-type: none"> 福井県小浜市におけるSDGs・地域循環共生圏の推進活動 小浜市の地域活動を題材に、ソーシャルビジネスの勉強会
■ 三田村佳政氏(合同会社ローカルSDGsクリエーション社長)	2021	<ul style="list-style-type: none"> 福井県越前市で地域循環共生圏フォーラム
	2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> PF事業に採択 福井県丹南エリアで地域ビジネス情報交換会(2022年度)
■ 堺勇人氏(環境市民プラットフォームとやま)	2021 2022 2023	<ul style="list-style-type: none"> SDGs社会教育(社会ESD)研究会業務に参画 同業務の実践活動で六渡寺海岸(富山県射水市)の漂着ゴミ拾い体験イベントを実施(2021年度) SDGs学生サミットでファシリテーター
■ 山田勇氏(NPOわおん)	2022	<ul style="list-style-type: none"> 環境NPOネットワークとの意見交換
■ 寺田卓二氏(一般社団法人ネクストステップ研究会 代表)	2023	<ul style="list-style-type: none"> 地域循環共生圏フォーラムの共催を検討中(2023年11月末現在)
■ コーディネーター全員	2021 2022	<ul style="list-style-type: none"> EPOの業務や主催イベントに対するニーズ調査ヒアリングへの協力

27

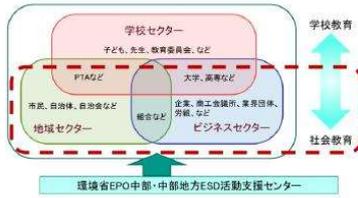
2. 第6期における主な取組

【方針3-iii】EPO機能の強化：取り残されがちな中小企業・自治体等への支援

28

学び合いプロジェクト：社会へのESDの実装を目指した実践と展開

ESDの社会実装を目指す！



2022年度8月開催オンラインセミナー
講師：江守 正多先生、木原 浩貴先生



2022年度11月
福井県大野市での
実践セミナー
ミステリーワーク
ショップとジグソー法

① 24枚のカードを使った
ミステリーワークショップ

② ジグソー法による
課題解決ワークショップ



福井県版気候変動ミステリー
ワークショップでは...

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

課題解決ワークショップでは...

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。

- 2021・2022・2023年度に、地域づくりの担い手や次世代育成のための気候危機対策と地域づくり・人づくりをテーマにしたオンラインセミナー（各年度2回）と、実践セミナー／ワークショップ（各年度1回）を開催。
- 2021年度は、11月に富山県射水市六渡寺海岸で実践セミナーを開催し、海岸ごみからSDGsを考えるワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に福井県大野市で実践セミナーを開催し、気候危機をテーマにしたミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップを実施した。
- 2022年度は、11月に愛知県常滑市鬼崎漁港で「食」から気候変動を考えるミステリーワークショップを実施した。

【実施結果】

- 効果的なワークショップのため、専門家による講演や地元活動者の話題提供に加え、体験や視察など工夫を凝らした参加者へのインプットを実施した。
- 構造的に可視化するワークショップで参加者のシステム思考が養われた。

29

SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成



- 3カ年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

【実施結果】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり＝人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。
- 2023年12月9日全国フォーラムのパネル展示で見本を展示、好評を得る。

30

2. 第6期における主な取組

そのほかの業務

31

森里川海生態系ネットワーク形成会合：OECMフォーラムの開催



生物多様性主流化フォーラム in 中部

OECMを通じた 企業の生物多様性保全活動

2023年1月25日(水) 13:30～16:30
オンライン開催 **参加無料**

2022年12月に開催された生物多様性条約の締約国会合において、「2030年までに陸と海の30%以上を保全する」という世界目標(30 by 30目標)が決定されました。

この30 by 30目標の達成に向けた重要な手段がOECM(オーイーシーエム)です。OECMとは、法律などにより保護地域に指定されていない場所で、企業やNGO等の取組により生物多様性保全が実施されている場所(企業施設、観光地、都市緑地など)を指します。国境を越えて、OECMの推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を認定する仕組み(自然共生サイト(仮称))の構築を進めています。

このフォーラムでは、今後、中部地域でOECMを推し進めていく方針を検討するため、OECMに取り組み意義やメリットなどについて深めます。

プログラムは裏面をご覧ください

申込方法

ZOOM参加は定員に達しましたので、YouTubeライブ配信による視聴参加を募集しています。

- 参加申込フォーム <https://forms.gle/WSWSYCL7J7M2u646>
開催日の前日、申込登録したメールへYouTubeの視聴URLをお送りします。
EPO中部ウェブサイト (@<https://www.epo-chubu.jp/>) からも申込できます。EPO中部
- メールで申込の場合 宛先: info@epo-chubu.jp
①氏名(フリガナ)、②連絡先(メールアドレスが電話番号)、③住所(所属を記載のうえ、住所「0125フォーラム」)で1月20日までに返信願います。

30 by 30及びOECMにご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。
特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまのご参加をお待ちしております。

参考 環境省ウェブサイト「生物多様性のための30by30アライアンス」
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance>

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス EPO中部

- 2023年1月にOECMの普及啓発を目的にしたフォーラムを開催。
- 共生サイトに試行採択された事業者3者のサイト紹介、環境関連事業への関心が高い企業団体EPOC等による取組紹介などを実施。

【実施結果】

- 参加者数等は268(zoom62件、YouTubeライブ配信視聴(ユニーク数)206件)となり、COP15閉幕の(報道がされていた)タイミングで本格的な参加募集広報を展開できたため、定員を大幅に超過する参加を得た。
- 全国から多数の企業・自治体が聴講参加し、OECM、環境省の自然共生サイトに対する理解を深めたとのアンケート結果を得られた。



32

SDGs学生サミット ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム「中部地方SDGs学生サミット」

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

SDGs学生サミット

2023年2月4日(土) 開催
13:00~17:00・オンライン

プログラム

第1部 団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～

中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第2部 話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～

中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
施策や取組をご紹介いただきます。

第3部 ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること！

進行 原 理史 (中部地方ESD活動支援センター)
記録 伊藤 恭彦氏 (名古屋市立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 座長)

一般参加 申込不要

- YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
- 視聴URLはWebページに掲載いたします。

Webページ

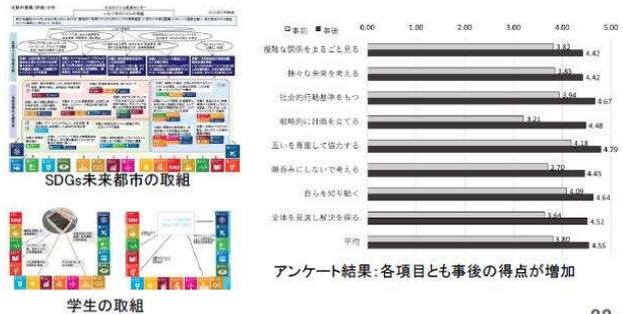
ハブとなる中部大学が最先端デジタル技術研究所
デジタルラーニング

主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター (協賛省EPO中部)
協力 ▶ 中部大学中級高等学術研究所、国際GISセンター 関連機関を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

- 2020年度から毎年2月に開催。
- コア参加として各回4~7団体の学生グループ、3つのSDGs未来都市基礎自治体が取組発表及びディスカッション。
- YouTubeによる一般視聴者への同時配信。

【実施結果】

- SDGs未来都市基礎自治体の取組を「活動見える化プログラム」の分析結果、学生の取組内容のSDGsワークシートの可視化結果を共有。
- 事前事後で参加学生にアンケートを実施。ユネスコ提唱のキーコンピテンシーにかかわる取組態度の強化を確認。



ユネスコジオパークをフィールドとしたESDダイアログ

自然資本を活かした人づくり・地域づくり
立山黒部ジオパークESDダイアログ2021
～高校生の学びからどんな力を養うか～

2022年11月20日(土)～21日(日)
恐竜渓谷ふくい嶺山ジオパーク

1日目 ESDダイアログ
11月20日(土) 13:00~16:00
2日目 エクスカーション
11月21日(日) 8:00~14:00

ESDダイアログ
11月20日(土) 13:00~16:00
11月21日(日) 8:00~14:00

エクスカーション
11月20日(土) 16:30~18:00
11月21日(日) 8:00~14:00

プログラム(1日目)

- 1. 開会式
- 2. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 3. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 4. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 5. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 6. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 7. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 8. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 9. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 10. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 11. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 12. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 13. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 14. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 15. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 16. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 17. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 18. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 19. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 20. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 21. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 22. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 23. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 24. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 25. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 26. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 27. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 28. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 29. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 30. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 31. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 32. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 33. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 34. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 35. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 36. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 37. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 38. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 39. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 40. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 41. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 42. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 43. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 44. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 45. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 46. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 47. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 48. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 49. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 50. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり

プログラム(2日目)

- 1. 開会式
- 2. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 3. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 4. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 5. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 6. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 7. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 8. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 9. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 10. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 11. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 12. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 13. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 14. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 15. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 16. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 17. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 18. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 19. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 20. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 21. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 22. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 23. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 24. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 25. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 26. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 27. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 28. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 29. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 30. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 31. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 32. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 33. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 34. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 35. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 36. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 37. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 38. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 39. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 40. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 41. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 42. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 43. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 44. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 45. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 46. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 47. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 48. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 49. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり
- 50. 自然資本を活かした人づくり・地域づくり

- 中部地方のユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園などの自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催。
- 2021年度より順次、立山黒部ジオパーク、恐竜渓谷勝山ふくいジオパーク、南アルプス中央構造線エリアジオパークで開催。

【実施結果】

- 地元の教育関係者、ジオガイド、ESD関係者に加え、学校で取り組む子どもも参加し、修士記者の監修のもと取組紹介とディスカッションを実施。
- 各回、中部地方のジオパーク担当者を中心に関係者の交流が行われた。
- 二日目にはジオサイトや取組を現地で見学するエクスカーションが行われた。



中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

中部地方ESD推進ネットワークフォーラム
 ESD推進ネットワーク活動の発展を促すため
 中部地方の地域ESD拠点間の交流と情報共有のための意見交換を行います

日時 2022年12月5日(月) 13:00~15:30
 場所 ウィンクあいち 906会議室(名古屋市中区栄4丁目4-38)
 対象 中部地方の地域ESD拠点団体(約100名、2022年10月現在)

プログラム(予定)
 挨拶 環境省中部地方環境事務所
 参加者自己紹介
 基調講演 ESDの今後の展開
 ~これからの社会をどうしよう?~
 大鹿先生、加藤先生(愛知教育大学)
 現状報告 環境省のESD推進、中部地方ESD活動支援センターの取組
 新 追加: 環境省中部地方環境事務所ESD推進センター報告
 参加者意見交換 中部地方ESD推進ネットワークの現状と展望
 閉会式 閉会

申込方法 参加者・参加団体に
 申込書(別添)を提出してください。
 申込書は、環境省中部地方環境事務所ESD推進センターへ提出してください。
 申込書の提出期限は、開催前日までとなります。

問合せ
 環境省中部地方環境事務所ESD推進センター
 (TEL) 052-235-2000
 (FAX) 052-235-2006
 E-mail: esd@chubu.env.go.jp

地域と学校をつなぐ ESD
 2023年9月21日(木) 13:00~15:50
 オンライン開催・参加無料

プログラム
 挨拶 環境省
 基調講演 「地域づくりと学校教育」 今求められる地域のESD 大鹿 先生(愛知教育大学)
 基調講演 「学校と地元が好きだから一地域と協働し学校教育づくり」 加藤 先生(愛知教育大学)
 基調講演 「ESD-SDGsを学びあふコミュニティづくり」 加藤 先生(愛知教育大学)
 基調講演 「ESD-SDGsを学びあふコミュニティづくり」 加藤 先生(愛知教育大学)
 基調講演 「ESD-SDGsを学びあふコミュニティづくり」 加藤 先生(愛知教育大学)

- 2022年度より地域ESD拠点とともに、基調講演とディスカッションをオンライン公開するESDネットワークの交流を深めるフォーラムを開催。
- 様々なセクターと学校教育現場をつなぐ場として設置した。

【実施結果】

- 中部地方で登録している地域ESD拠点10程度が参加し、交流を深めた。
- 2022年度は愛知教育大学教育学部の大鹿先生、2023年度は金沢大学教育実践研究科の加藤先生の基調講演をいただき、学校と社会との連携についての議論を深めた。



その他) 第6期EPO中部/中部ESD活動支援センターのリーフレット

- 2021年11月に完成・発行。
- 催事参加者や招聘された地域行事等で、約300部を毎年度配布している。

EPO中部/中部地方ESD活動支援センターの第6期(2021年度~2023年度)の目標
 アフターコロナ、地域循環共生圏づくり、SDGs活用が基となる中堅企業において
 新フェーズに対応し、地域が必要とする協働-ESD-SDGsの実装・実践のための支援、誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築に取り組みます。

持続可能な地域づくりにEPO中部/中部地方ESD活動支援センターをご活用ください。

EPO中部が目指す地域づくり
 地域循環共生圏(スナゴロ)の創出
 SDGsを達成する地域
 中部地方ESD活動支援センターが目指すづくり
 地域づくりの推進

こんな時はEPO
 SDGs、地域循環共生圏、協働、ESD、環境教育、人づくり、人材育成などの相談・調査、情報収集、広報協力を行います。お気軽にご相談ください。

- ◆相談したい、紹介してほしい
- ◆ミーティング・スペースが利用できます
- ◆情報が知りたい、収集したい
- ◆広報したい、PRしてほしい

3. 第6期業務の総括

37

第6期の「目標」と「方針」(p.4参照)の達成可否等についての総括

● 「目標」について

- ・ 第6期に主催した行事で、オンライン活用が定着すると共に、企画目的・意図に応じたオンラインとリアルを使い分けを行うなどして、協働・ESD・SDGs実装・実践の支援に向けた新フェーズ対応の取組を展開できた。
- ・ 誰も取り残されないターゲット設定、EPO機能強化の関係構築については、さらなる強化・向上の余地もあるが、当初目標で想定していた取組・企画についてはすべて遂行し、達成できたものと考えている。

● 「方針」について

- ・ 「方針」全般について、仕様書項目が一部変更になった業務、及び2023年度業務のこれから開催する行事を除くと、当初想定・企画していた業務は全て実施し、企画目的を達成できたと考えている。
- ・ 「方針1-①・②」については、地域への支援の【個別対応】として、各年度で特定地域・テーマへの支援を目的とした催事を開催した。また、【汎用化】を目的とした業務として、地域支援に用いたEPO中部独自プログラムをウェブサイト公開すると共に、ほかの地域・テーマでの支援にも応用・活用するなど、汎用化も実践できたものと考えている。
- ・ 「方針2」については、第5期から構築・作成している独自ツールを第6期でも活用しつつ、新たな独自ツールとして、地域SDGs評価に関わる『SDGs指標物語』を構築することができた。
- ・ 「方針3-i・ii」については、PF事業支援や主催催事等を通して、新たな関係構築、ネットワークづくりを遂行できたが、関係性の更なる強化・向上については今後も課題になるものと考えている。
- ・ また、「方針3-iii」については、「学び合いプロジェクト」で取り残されがちな中小事業者や自治体を対象にしたほか、「ESDワークブック」を新たに作成・公開し、当初想定していた以上に同セグメントを対象にした支援を実践できたものと考えている。

38

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価等
協働コーディネーターの地元ネットワークを活用した環境教育の推進	【2021年度】 地域循環共生圏づくりの特定テーマ(再エネ、脱炭素、資金調達等/地域側と協議して決定)についての勉強会 開催1回・3時間・参加者30名程度	・テーマ: 里山里海保全活動の収益化で、フォーラムを開催。地元活動者23人が参加した。	・地域イベントのため、参加者は少数だった。 ・フォーラム参加者をSHIにして、次年度PF事業に応募し、採択された。 ・数値目標は達成不可だったが、企画目的は達成できた。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりのEPO中部による支援プログラムの実践 全3回講座・各1～2時間・参加者30名程度	・EPO企画WSプログラムを実施するフォーラムを長野県諏訪市で開催。58人が参加。	・WSプログラム「なりたい地域の未来づくり」が参加者に好評で、WEB公開後も問合せがあった。 ・目標を2倍近く上回る参加者数があり、参加者数、支援プログラム実践という当初の目標を達成した。
	【2023年度】 中部エリアの自治体職員及び協働コーディネーター等を対象として環境施策に関わる実践的勉強会等の実施 東海エリア等で1回開催・3時間・参加者50名程度	・ローカルSDGsの指標、達成度をテーマにしたセミナーを名古屋市内で開催。19人が参加。 ※三重県内で2月にフォーラム開催予定あり。	・参加者アンケートの結果は非常に好評だったが、愛知県以外からの参加者が少なく、目標の参加者数は達成できなかった。
遠隔地(北陸・信越)における協働コーディネーターと連携した実践的取組の実施	【2021年度】 「学び」と「協働」による地域循環共生圏づくり(各地域への協働実践支援) 地域循環共生圏づくり実践に向けた普及啓発(地域のやる気の掘り出し) 北陸2回、信州2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・長野県長野市でローカルSDGsを学ぶ連続講座を開催(初回・最終回をEPO主催で実施)。計79人が参加。 ・福井県小浜市で地域循環共生圏をテーマにしたワークショップを全2回実施。計51人が参加。	・行政、市民団体、企業、自治組織など多数の多様な主体が参加。地域課題WSの学びや気づきが今後の地域づくりで生かせるとの感想をいただいた。 ・地域循環共生圏づくりの実践を目指したが、地域側にあった消極姿勢も浮き彫りとなった。 ・目標とする参加者数に届かなかった催事もあがあるが、計4回の参加者数の合計(130人)は目標を達成した。
	【2022年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー/プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ・前年度に続き、長野市等でテーマを絞ったローカルSDGs勉強会を全2回開催。計50人が参加。	・関連する地域活動で「見える化P」を作成し、勉強会の中で概説活用。チャートはWEBでも公開。参加者に『見える化』の重要性を再認識いただいた。 ・企画目標は達成できたが、参加者数は目標を達成できなかった。
	【2023年度】 地域循環共生圏づくりやSDGs推進の支援プログラム、地域SDGs評価メニュー/プログラム等の実践活用 2エリアで各2回(計4回)開催、各回3時間・参加者30名	・仕様書上、1エリアのみでの実施となった。 ※協働コーディネーターのご事情等あり、1月、2月に計2回開催予定。	

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果	成果、自己評価等
ESD活動支援	①「(仮称)中部版ESDワークブック～学生・社会人のための地域社会SDGs実践」作成 1年目プロトタイプ作成、2年目完成公開、3年目活用実践	・年3回の有識者の研究会に基づき2022年度にプロトタイプ版を作成公開済み。 ・3年目において活用実践を目的とした12ページのパンフレットタイプを作成。	・幅広くESDが実践できるようハードルを下げる工夫を凝らしたワークブックパンフレット原稿を作成し、全国ESDフォーラムでの紹介も高い評価を受けた。 ・2023年12月現在、公開に至っていないが、2024年2月に依頼された愛知県市町村環境教育職員研修で活用予定である。 ・以上から当初の目標を達成した。
	②相談対応及び支援/情報の受発信/ Webサイト運用 第5期を上回る実績	・相談対応件数: 2021年度40件、2022年度52件(EPO対応を含む) ・Webサイト更新: 2021年度206件、2022年度216件/ウェブアクセス数: 2021年度13575件、2022年度10738件	・いずれの指標も第5期と同等程度、もしくは上回る件数となった。 ・講師やファシリなど職員派遣による支援も増え、大人数相手の講演(2022年度・2023年度実績例、高校授業、学年全クラス230人)など、実質的支援/発信量は増加傾向となっている。 ・以上から目標は達成されたと考えられる。
	③ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラムの開催(各年度1回) コア参加20名、一般参加30名程度	・2021年度(5と同時開催) ・2022年度参加者26名 ・2023年度参加者38名	・2021年は5との同時開催であった。全体では110名を超える参加となった。2022、2023年は地域ESD拠点に対象を絞り30名程度の参加を得て濃密な議論を行った。 ・以上から目標は達成した。
	④自然資産を活かした地域づくりESDダイアログの開催(各年度1回) コア参加10名、一般参加30名程度	・2021年度参加者1日目45名、2日目15名 ・2022年度参加者1日目53名、2日目16名 ・2023年度参加者1日目41名、2日目19名	・ジオパークダイアログでの参加者に加え、各回2日目のエクササイズでも自然資産を活用したESDディスカッションと交流が行われた。 ・参加者数は目標を上回り、有意義な内容を含め目標は達成された。
	⑤中小企業・自治体のESD/SDGs取組の促進、ユースと社会のESD/SDGs連携 交流者10名程度、実践者30名程度	・2021年度参加者コア参加52名、視聴59名 ・2022年度参加者コア参加76名、視聴40名 ・2023年度(2024年2月実施予定)	・学生のSDGs取組と自治体のSDGs取組の交流が実質的に進む会合となった。また各回100名以上が参加するなど広範囲な効果も認められた。イベントの事前事後のアンケートでは、学生のキーコンピテンシーの向上が認められた。 ・以上から目標を大きく上回る成果となった
	⑥包括的専門家ヒヤリング(各年度1回)、現場ヒヤリング(各年度適宜) 専門家(各年度1回)、現場ヒヤリング2名程度	・2021年度: 専門家1名、教職員等2名 ・2022年度: 専門家1名、教職員2名 ・2023年度: 専門家1名、教職員2名、事業者2名	・有識者から俯瞰的なESDの諸課題について見識のある示唆が得られた。 ・教職員からは学校現場の具体的な課題が、また事業者からは社会におけるSDGs達成のためのESDの役割や課題に関わる多くの示唆が得られた。 ・以上から有意義な知見を含め目標は達成された。

40

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

第6期業務の成果と評価

業務	第6期事業計画作成時に設定した目標	実施結果 ※開催時間はすべて達成	成果、自己評価等
森里川海推進ネットワーク形成会合の開催	【2021年度】 ユネスコエコパーク白山BR及び白山国立公園(場合によっては勝山ジオパーク、白山手取川ジオパーク等含む)で、「白山ブランド」向上をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 白山ジオパーク & BRで計2回の情報交換会を開催し、計52人が参加。 ・ 地域側との協議により、「地域の未来像づくり」「地域の魅力向上の取組アイデア」を話し合うWSを実施。	・ 白山ジオ&BRでこのように関係者が集う会合は初めてであり、白山ジオ & BRのあり方を深掘りし、各関係者の認識を共有する良い機会になったとの感想をいただいた。 ・ 企画目標は達成できたが、参加者数はわずかに目標を下回った。
	【2022年度】 南アルプスBR、志賀高原BRで、「持続可能な地域づくりのためのゴール(SDGs)と観光(サステナブルツーリズム)」をテーマに開催 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 2022年度の本業務では、全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 ・ 中部7県担当で情報交換を行うクローズド会合1回、オンラインフォーラム1回を開催し、フォーラムでは企業を中心に268人が参加。	・ 定員を大幅に超過した参加希望があり、急遽YouTube配信を増設するなど、参加者数は目標を大きく上回る結果となった。 ・ 参加企業等からは、OECM等への理解、自然共生サイトの認知が得られ、翌年度は愛知を中心に中部エリアから多数の企業が自然共生サイトへの認定申請があった。
	【2023年度】 ジオパーク、ユネスコエコパーク等を活用したESD業務(ESDダイアログ開催)との連携・運動による開催など 1エリアで2回開催、各回3時間・参加者30名	・ 継続して本業務において全EPOがOECMをテーマに会合等を開催することになった。 ※ 信州の森林・里山フォーラム、EPOC協力による企業の生物多様性勉強会を12月、1月に開催予定。	・ 2023年11月現在、未開催であるが、登壇者や協力企業・団体と、今後の地域循環共生圏づくり/ネイチャーポジティブ支援に活かせるつながり構築につながっている。
地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化	【2021-2022年度】 地域のパートナーシップ構築支援: 具体のプラットフォーム構築事業の採択団体への支援となる会合またはイベントの開催(2カ年度) 各年度2エリアで各1回開催、各回2時間、30名程度	・ 2カ年度で8エリア/回の会合・イベントを実施し、うち4回をPF事業採択団体への支援を目的に実施(PF郡上、PF七尾、PF丹南、PF尾鷲)。4会合で計180人が参加した。	・ 4会合の合計参加者数は、目標数120名(30名×4回)を大きく上回り、達成できた。 ・ 会合・イベントにより、各団体関係者である参加者の気付き、新たな関係性構築などがあり、各団体がその後の取組展開で、地域の現状・課題感に即した新たなシナリオを描くことにつながった。
	【2021-2022年度】 特定のテーマでの会合(脱炭素ロードマップ等)(2カ年度) 各年度で会合1回実施、各回2時間、30名程度	・ 2カ年度のうち2022年度に東海、北陸の2エリアで地域脱炭素をテーマにしたセミナーを開催。3セミナーで計205人が参加した。	・ 財務省・経産省との共催により、多数の金融機関、企業の参加を得られ、参加者数は目標数60名(30名×2回)を大きく上回る結果を得られた。 ・ EPO自身も登壇企業等との新しい関係構築につながった。
	【2023年度】 環境×経済に関わる特定テーマで情報共有、マッチング会合を実施 協議と会合各1回実施、各回2時間、30名程度	・ 2023年度からは、全EPOがSH連携促進事業としての会合等を実施することになった。 ※ 鳥羽観光創発会合、北陸脱炭素セミナーなど計4会合・イベントを1月に以降に実施予定。	—

41

参考) 実施した主催イベント一覧 (及び参加者数)

* 記載イベント名は略称

	※参加者・オンライン視聴者の数(2023年11月末時点)					
	協働	参加※	地域循環共生圏	参加※	ESD	参加※
2021年度	・ 越前の地域循環共生圏フォーラム	23	・ PS基盤強化: 飯山会合	22	・ 学び合いの場①	65
	・ 地域循環共生圏セミナー in 中部	40	・ PS基盤強化: 郡上会合	15	・ 学び合いの場②	38
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ①	15	・ PS基盤強化: 小浜会合	22	・ SDGs社会教育～実践セミナー	47
	・ 小浜市地域循環共生圏ワークショップ②	36	・ PS基盤強化: ななおフォーラム	26	・ ESDダイアログ in 立山黒部	45
	・ ローカルSDGsスタートアップフォーラム	49	・ 森里川海: 白山ジオ&BR情報交換会①	25	・ SDGs学生サミット(ESD推進ネットワーク地域フォーラム)	115
2022年度	・ ローカルSDGs テイクオフセミナー	30	・ 森里川海: 白山ジオ&BR情報交換会②	27		
	・ 地域循環共生圏フォーラム in SUWA	58	・ PS基盤強化: おわせ意見交換会	128	・ 学び合いの場①	60
	・ ローカルSDGs/地域循環共生圏セミナー	17	・ PS基盤強化: 丹南会合	11	・ 学び合いの場②	61
	・ 長野市芋井地区「災害に強い地域づくり」	35	・ PS基盤強化: 脱炭素セミナー(東海開催)	116	・ 実践セミナー: 脱炭素のまち・人づくりWS	51
	・ 信州ローカルSDGs勉強会「学校×地域」	15	・ PS基盤強化: 脱炭素セミナー(信州開催)	84	・ ふくい勝山ジオパークESDダイアログ	53
2023年度			・ 森里川海: OECMIに関する情報交換会	55	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	26
			・ 森里川海: 生物多様性主流化フォーラム	268	・ SDGs学生サミット	116
	・ ローカルSDGsセミナー	19	・ 自然資本: 信州の森林・里山フォーラム	12/16開催	・ 学び合いの場①	35
	・ 地域循環共生圏フォーラム in 北勢	2/16開催	・ 自然資本: 企業の生物多様性保全勉強会	1/26開催	・ 学び合いの場②	33
	・ 持続可能な地域づくりワールドカフェ	1/13開催	・ SH連携: 鳥羽の観光創発ミーティング	1/16開催	・ 実践セミナー: 食べ物が変わる?!	43
予定あり	・ 長野市芋井地区 ローカルSDGs勉強会(仮)	2/4開催	・ SH連携: 北陸脱炭素セミナー	2/7開催	・ 南アルプスジオパークESDダイアログ	41
			・ SH連携: サークュラーエコノミー会合(仮)	2/下旬開催	・ ESD推進ネットワーク地域フォーラム	38
			・ SH連携: 奥三河会合(仮)	2/14開催	・ SDGs学生サミット	2/10開催

42

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

参考) 相談問合せ件数と対応状況 (上表) とウェブサイトアクセス数 (下表)

相談問合せ件数と対応状況

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制構築 (ア)会議・セミナー等 地域活動への 招聘	イ 対話の体制構築 (イ)その他 域主体との打 合せや意見交 換等	ア+イ 対応件数 総計
	事例件数※1	①相談に対し 支援対応等を行 った案件の延 べ件数 (左記①含む)	照会・相談 対応等の延 べ件数	②延べ 来館件数※2	②相談・ 照会、資 料配架依 類等	会議利 用			
2021年度 4月～3月・12ヵ月間	52	242	94	17	30	148	42	84	368
2022年度 4月～3月・12ヵ月間	40	276	76	43	33	200	62	99	437
2023年度 4月～11月・8ヵ月間	27	172	61	34	27	111	14	80	266
合計	119	690	231	94	90	459	118	263	1,071

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。
 ※2) 延べ件数: 同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

ウェブサイトアクセス数

URL	第5期			第6期		
	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度※
EPO中部Web サイト http://www. epo-chubu.jp	参考値 279,316 件 別ソフト解析集計	参考値 810,836 件 別ソフト解析集計	参考値 501,670 件 別ソフト解析集計	32,185 件	31,134 件	18,143 件
中部地方ESD活 動支援センター Webサイト https://chubu .esdcenter.jp	10,612 件	11,521 件	13,132 件	13,575 件	10,948 件	8,383 件

参考値以外はGoogleアナリティスによる解析・集計/2023年度は2023年4月～11月末の集計

43

今後に向けて

● 新しいネットワークの構築とその活用

- ・ 協働コーディネーターに加えて、イベント登壇者、開催協力主体、PF事業採択団体等との継続的な関係性構築が重要であり、新たなネットワークづくりとそれを活用するための方策と体制が必要になっている。

● EPO機能やEPOのあり方を明示する広報の展開

- わかりにくいと言われがちなEPOの機能及び中間支援機能、EPOが誰に何をしているかを第三者へ見える化しておく必要がある。
- 特にこれまで手薄になりがちだったワークショップ、ディスカッション等の実施事例や、相談対応や地域側からの招聘事例の実事例、独自ツールの活用事例等をウェブサイト等で公開・紹介するなど、《EPO中部を明示する広報》が必要とされている。

● EPOとESDセンターの連携強化と3分野+1への関わり方の提示

- EPO業務・ESD業務ともに年間を通して仕様書業務の遂行のみに注力しがちであり、EPOの地域づくりとESDセンターの人づくりを連携させつつ、今後の環境省の重要施策となるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、及び、それらを包括する地域循環共生圏づくりに、どのような支援や関わり方ができるか提示・実践していくことが重要と考える。

44

※第6期業務概要報告書を作成した2023年11月末現在の内容となっている。

イ 総括と今後に向けて（※第6期業務概要報告書より再掲）

（ア）第6期の「目標」と「方針」の達成可否等についての総括

①「目標」について

- 第6期に主催した行事で、オンライン活用が定着すると共に、企画目的・意図に応じたオンラインとリアルを使い分けを行うなどして、協働・ESD・SDGs 実装・実践の支援に向けた新フェーズ対応の取組を展開できた。
- 誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築については、さらなる強化・向上の余地もあるが、当初目標で想定していた取組・企画についてはすべて遂行し、達成できたものと考えている。

②「方針」について

- 「方針」全般について、当初想定・企画していた業務は全て実施し、企画目的を達成できたと考えている。
- 「方針 1-①・②」については、地域への支援の【個別対応】として、各年度で特定地域・テーマへの支援を目的とした催事を開催した。また、【汎用化】を目的とした業務として、地域支援に用いた EPO 中部独自プログラムをウェブサイトに公開すると共に、ほかの地域・テーマでの支援にも応用・活用するなど、汎用化も実践できたものと考えている。
- 「方針 2」については、第5期から構築・作成している独自ツールを第6期でも活用しつつ、新たな独自ツールとして、地域 SDGs 評価に関わる『SDGs 指標物語』を構築することができた。
- 「方針 3-i・ii」については、PF 事業支援や主催催事等を通して、新たな関係構築、ネットワークづくりを遂行できたが、関係性の更なる強化・向上については今後も課題になるものと考えている。
- また、「方針 3-iii」については、「学び合いプロジェクト」で取り残されがちな中小事業者や自治体を対象にしたほか、「ESD ワークブック」を新たに作成・公開し、当初想定していた以上に同セグメントを対象にした支援を実践できたものと考えている。

（イ）今後に向けて

①新しいネットワークの構築とその活用

- 協働コーディネーターに加えて、イベント登壇者、開催協力主体、PF 事業採択団体等との継続的な関係性構築が重要であり、新たなネットワークづくりとそれを活用するための方策と体制が必要になっている。

②EPO 機能や EPO のあり方を明示する広報の展開

- わかりにくいと言われがちな EPO の機能及び中間支援機能、EPO が誰に何をしているかを第三者へ見える化しておく必要がある。
- 特にワークショップ、ディスカッション等の実施事例や、相談対応や地域側からの招聘事例の実事例、独自ツールの活用事例等をウェブサイト等で公開・紹介するなど、これまでは手薄になりがちだった《EPO 中部を明示する広報》が必要とされている。

③EPO と ESD センターの連携強化と 3分野+1 への関わり方の提示

- EPO 業務・ESD 業務ともに年間を通して仕様書業務の遂行のみに注力しがちであり、EPO の地域づくりと ESD センターの人づくりを連携させつつ、今後の環境省の重要施策となるカーボンニュートラル、ネイチャーポジティブ、サーキュラーエコノミー、及び、それらを包括する地域循環共生圏づくりに、どのような支援や関わり方ができるか提示・実践していくことが重要と考える。

ウ 2023 年度主催イベントの参加者アンケート結果より

- EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターが主催したイベントにおいて、参加者を一般公募した全てのイベントで参加者アンケートを実施した。
- なお、一部のイベント等はアンケート回答者数が少なかったことから、割合（％）の算定は行っていない。
- 集計結果をみると、全体的にどのイベントも5段階評価で5（選択肢「たいへん良かった」）または4（選択肢「良かった」）が多くなっており、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が多く、参加者（回答者）から好評を得られている。

		● 今回の催事はいかがでしたか(5段階評価)					
		5/5段階	4/5段階	3/5段階	2/5段階	1/5段階	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	25	7	1	0	0	0
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	11	0	0	0	0	0
	231219信州の森フォーラム (n=16)	5	10	1	0	0	0
	240213中部カンファレンス (n=40)	19	19	2	0	0	0
	230701白書を読む会 (n=105)	29	44	24	2	6	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	7	2	0	0	0	1
	231118ESDダイアログ (n=16)	9	6	0	0	1	0
	230829学び合い① (n=11)	4	6	0	0	1	0
	230904学び合い② (n=6)	2	3	0	1	0	0
	231125実践セミナー (n=4)	3	1	0	0	0	0
EPO業務・計(n=205)		89	80	28	2	6	0
ESD業務・計(n=47)		25	18	0	1	2	1
全体(n=252)		114	98	28	3	8	1

		● 今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	32	0	1	0
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	11	0	0	0
	231219信州の森フォーラム (n=16)	12	0	4	0
	240213中部カンファレンス (n=40)	35	0	5	0
	230701白書を読む会 (n=105)	49	2	54	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	9	0	1	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	10	0	6	0
	230829学び合い① (n=11)	10	0	1	0
	230904学び合い② (n=6)	5	0	1	0
	231125実践セミナー (n=4)	4	0	0	0
EPO業務・計(n=205)		139	2	64	0
ESD業務・計(n=47)		38	0	9	0
全体(n=252)		177	2	73	0

【具体的に役立つ情報・事例の内容とは】 ※原文のまま掲載。

240214 北勢 フォーラム	・廃(統合)小学校の利用策を地下と共に「地域力」を活用して。・みずほの国の基本をあらためて認識させられた。(農と食とコミュニケーション)
	MEGURURUSTASTION キュー
	アマタさんの取組など
	うつべ農園さん、アマタ(株)の事例
	ゴミステーションの話
	これからの居場所づくりは他世代がいつでも集える所、人も物も大切な資源、子どもたちと地域で分別ごみの取り組み
	ネクストステップ当の取組み
	ワークショップでより四日市の大事にしていることが知れました。
	ワークショップで他の方の考えが聞けた事
	話をしているとアイデアが出てくるのを実感
	課題を考えることで実はそれが資源化にもっともつながりのあることという気づき
	各人の取組みが違うけれどやはり四日市をよくしていこうという考え方が分かった
	各団体、企業の取組み
	各地域の取組が聞けた。MEGURUSTASTIONの事例がすごく良かった。
	環境に取り組む団体を知ることができた
	共通の課題や想いを共有し、具体的な案まで話しあえました
	業務に活用できるような情報を得ることができました
	四日市の課題について深く知ることができた
	事例の紹介(各企業例)
	色んな取り組みを知ることができました
新しい視点が知れました	
多くの人、団体の存在の存在していることが分かった	
知らなかった情報をたくさん聞けた。	
地域のつながりの重要性や、皆さんの意識・考えが大変勉強になりました。	
二番目の話が興味があった	
231106 ローカル SDGs セミナー	オンラインプラットフォーム
	ターゲットの認識
	ツール等の存在と活用法について
	ローカルSDGsの指標と達成度評価について活用可能なサイト、ツール
	ローカルSDGsの指標と達成度評価について活用可能なサイト・ツール
	川久保先生のクローバーに、地域課題検討のWSの情報を載せたいと思いました。
	川久保先生の発表にあった情報収集等に使えるツール
	他自治体のSDGsに関する情報の共有
	他自治体の状況を知れたこと。
様々なプラットフォーム	
231219 信州の 森フォーラム	・地域に根差した取り組みの具体例
	①余頃先生の地域に根差した活動や、地域の中で活動しているからこそ話すことのできる生の声。②飯泉さんの地域に入り、事業を展開するまでのプロセス
	行政としての役割。地域林業として重要なこと
	森林・里山の課題の解決と新たな価値創出フォレストデザイン 代表 余頃 友康 氏
	森林・里山の利活用と価値の向上に関する環境省・林野庁の問題意識・取り組み方針を伺うことができた
	森林サービス産業を推進する上で、どのような業種とつながりを構築すればいいのかについて参考になりました。少しずつでも始めることが大事だと再認識しました。
	森林の利用について、民間での取り組みと行政側の取り組みの双方を知れたのは大変勉強になりました。
	地域の中での、社会、企業、団体との連携の重要性
	東急さんの取り組みなど。現在、地域の取り組みで山を管理している市町村も多いと思いますが、限界があると感じていました。仕事に繋げていく?!ことは必要だろうと感じました。
里山は地域と一体であり、里山をどうしていくかということは、地域をどうしていくかということという話は、強い説得力を感じました。	
240213 中部カンファレンス	・愛知県の水素プロジェクト ・日本郵船のアンモニア船
	・船舶燃料としてアンモニアの利用は拡大する。(IEA)
	CNPの現状と第三者検証による評価がなされること等
	CNP取組について
	アンモニア混燃、専燃にむけた取り組み状況。
いままで断片的に見聞きしていた国・中部圏水素・アンモニア社会実装推進会議の動向を系統立ててご説明いただいた	

	愛知県さまの水素利活用PJ等具体的に推進されている情報
	各関係者の最新の動向が把握できよかった
	各社の取り組みや最新の状況を把握することができた。特に行政の取り組みについて理解でき、連携を深めていきたいと感じた。
	官民それぞれの取り組みの具体的な方向性や時間軸があり参考になった
	環境省、経産省などが本気で脱炭素を進める上での支援内容が理解できた
	環境省の水素に関する取組が良く理解出来た。
	企業の取組について理解を深めることができた
	県や市の取組状況とビジョンが理解できた事。また、事例はその進捗状況として説得力を感じられた。
	産官それぞれの足元取組と今後方針が個別具体的に聞けたこと。中部圏の取組・立ち位置がふかんに理解できた。
	支援制度の内容について
	自分の所属する海運業界の他他業界などの立場からの意見等
	水素、NH3に関する官民の方向性が合致している事が非常に良く解りました。(各省庁の考え方についても同様です。)
	水素・アンモニアに関する、考え方、ロードマップ、状況を確認できた。
	水素・アンモニア等の具体的なロードマップを示していただいた。
	水素・アンモニア利用の実証推進状況がよくわかった
	水素とあわせてアンモニアの活用に関する情報
	水素の利活用について、官民が前向きに取り組んでいることが感じられた
	水素基本戦略改定 支援制度(水素・アンモニアの価格差・拠点整備)
	水素発電
	船舶関係の燃料転換についての情報。
	現在は重油を供給しているが、今後需要が減ることを見込んでの対応が必要と感じた。
	船用燃料としてのアンモニア利用
	中部圏の水素・アンモニア社会実装の概要
	日本郵船やJERAのアンモニア利用について考え方が判ったから。
	幅広い業界と官の皆様より最新技術を共有頂けました
	民間の報告内容
	様々な国や県の取り組みや支援
230701 白書を 読む会	30by30の項目にある健全な動物の保護、保護地域の拡大
	3R、循環型社会の促進について。
	3Rの詳しい取り組みについて深く理解できた。
	CO2は家庭からの排出が60%と分かり、いかに個人個人の努力が必要かがわかった。
	なじみの少ない白書について、項目とその概要を説明していただいたので、興味のある所をもう少し詳しく読む機会になると思うので、これだけでも効果がある。
	ネイチャーポジティブ経済について
	ネイチャーポジティブ経済移行戦略を今年度で策定するということは知らなかった。
	ヒアリについての対策知りたかったのでよかったです。
	プラスチックゴミの件
	我が国の温室効果ガス排出量を消費ベースで見ると、全体の約6割が家計によるものであるということ
	我が国の物質フローなど、過去の状態と現在の状態の比較があるものは、取り組んできたことの成果などが分かってとても有益でした。
	外来種の扱いが分かった
	外来種の対策
	外来種生物の問題でした。
	外来生物のヒアリが国内に定着してしまう直前の段階に来てしまっている事、それら外来生物の輸入等を厳格に規制することで対策を講じている事など、外来生物の情報を得ることが出来ました。
	環境のこれからについてわかった
	環境保全についての取り組みについてしれた
	環境保全や社会、経済についてわかりました。
	気候変動と生物多様性というところ
	具体的な環境についての話が聞けた点、少し身近に感じた。
	現在の国における動きが解った。
	地域にて活動している人間との温度差が大きいことを感じた。
	現状での二酸化炭素の量など詳しい情報を知ることが出来た。
	思っていたより地球温暖化による影響が大きかった。自分も地球温暖化の対策をするよう努力しようと思った。
	自然環境の外来種などの部分
	自然共生サイト
	自分には何ができるのかがわかりました。

	<p>循環型社会に関する情報</p> <p>循環型社会形成推進基本計画について</p> <p>世界の環境施策の動向と日本の動きの関連性が理解できた。</p> <p>政府が出している白書の大項目を把握できた</p> <p>生物を飼うためには審査がある生物があるということがわかりました。</p> <p>生物多様性について詳しく知ることができた</p> <p>生物多様性国家戦略の国際的な動きと国内での動きを理解しました。</p> <p>全体の俯瞰ができた。</p> <p>第3章持続可能な地域と暮らしの実現</p> <p>地球温暖化と資源循環</p> <p>地熱発電が少ない理由や、海外のゴミの分別について、生物を守るために国土交通省・農林水産省・環境省が協力していること、など</p> <p>特定外来生物の話が前々からとても気になっていたので勉強になりました。</p> <p>名古屋生物多様性COPの進捗状況について</p>
230921 ESD ネットワーク フォーラム	<p>いろいろな立場の方が地域・学校をつなぐESDについて考えてる内容が知れたことがためになった。いろんなアイデアもある、実践もある。あとは持続すること。これこそ課題だと痛感した。</p> <p>ななおSDGsスイッチの取組</p> <p>加藤先生の基調講演、学校現場の事例紹介</p> <p>緒川小の考える最適化に基づくカリキュラムデザイン</p> <p>緒川小学校の話聞いて、学校は地域やまわりの人々に支えられて成り立っていることを改めて実感でき、多くの人とつながっていくことが大切だと思いました。個性化教育が主体的な学びに直結すると感じたので、ぜひ勉強していきたいと思いました。</p> <p>地域とのつながり方についての今後の方向性を考えることができた。取組における課題については、共通する部分が多く、自分の考え方に間違いがないこともわかった。</p> <p>中部地方の実践の様子がたいへんよくわかった。</p> <p>連携の重要性を感じ「動画」をネットワーク化すればいいと思いました。小川小の(各地域での)校長先生が素晴らしい！</p>
231118 ESDダイ アログ	<p>ESDダイアログについてほとんど理解していなかったが、今回は大変に勉強になった。</p> <p>各ジオパークの特色がわかった</p> <p>勝山市、大鹿歌舞伎、遠山郷エコジオパークフィールドスタディの取組</p> <p>他地区でのESDの活動の様子を知ることが出来てよかった</p> <p>大鹿村の無形文化財継承の取組、南アルプスの大鹿歌舞伎で自分たちと同じ中学生が無形文化財を通して地域を盛り上げていることが参考になりおどろきました。</p> <p>地域活動は地域の方と一緒にやってこそ成立するものだと思います。田舎に住む人は「何も無い」というけれど、その「何も無い」と思い込んでいる生活や文化こそ尊く守りたいものだと思います。</p> <p>地元の南アルプスジオパーク協議会の取り組みのみならず北陸地方のジオパークの取り組みも参考になりました。</p> <p>長谷の太陽はバナナアイスに合うらしい。大鹿中学校は歌舞伎の練習にとっても熱心な中学生がいて村民もとても協力的など。</p> <p>長谷中学校の唐辛子の事例や大鹿歌舞伎の事例から地域とつながりを持ちながら活動することの重要性を学んだ</p> <p>南アルプスの全体 自然の保全と活用が役に立つ。ジオパーク・エコパークの対応について知ることができた。ESD-ジオパーク観光面よりも教育面で役立って。</p>
230829 学 び 合 い①	<p>我々は地方のフロントランナーになる必要があると再確認した。</p> <p>学術的なアプローチから市民活動の在り方と行動変容を探ることができた。</p> <p>緩和と適応だけを取り出して組み立てようとする失敗するリスクが大きくなること。これまでの公教育が、VUCAの時代には、いかに役に立たないものかを公教育を担っている教師の皆さんにご理解いただくことが不可避ではないでしょうか？</p> <p>気候変動教育についての理論的背景</p> <p>気候変動教育の取り組み方についての考え方「社会を変える、社会が変わる」が参考になりました。</p> <p>気候変動教育の現在の状況や位置</p> <p>気候変動対応には緩和策に加えて適応策が必要である事、変えるから変わるという発想</p> <p>合意形成、共感、データと哲学</p>
230904 学 び 合 い②	<p>気候変動から発生する地域課題について、大人、子供を問わず課題解決を議論し学び合いしていくことが気候変動教育の重要な側面であることを、実践例を通じて理解できたこと、ESDとSDGsの関係を登山に例えていただいたこと</p> <p>水上先生のお話にあった坂井市の取り組み</p> <p>水上先生の実践報告がとても参考になりました。</p> <p>まずはESDについてほぼ知らなかったのが、知ることからできました。そして私達が生活している中で、子どもが地域の中で感じる課題に触れる際に気候変動とつなげやすいことを感じました。</p>

231125 実践セミナー	ご飯が美味しかった。講演とワークショップも学びがあった。 温暖化の農業への影響、伊勢湾の水産資源、鬼崎漁協の歴史と取組内容 若い世代が気候の変化を実感していない、ということ →未来の子ども達のために、というフレーズを恩着せがましく使うのは止めて、自分たちの身勝手に温暖化という厳しい環境をつくってしまったことを真摯に反省し、今の自分の不快感・不都合を自分が生きている間に、少なくとも悪くしないこと、できれば改善することのために努力したいと思う。恩着せがましく、誰かのためじゃなく自分のために。 海水温の上昇、漁業の現状などの情報を知ることができた。海苔養殖の工程や課題を学べた。 森里川海からとれる食がすべて気候変動とつながりがある点
------------------	--

- 各催事のテーマや今後の取組、関心等への積極性が喚起されたか否かの設問でも、ほとんどが肯定的な回答となっている。
➤ 注：イベント（のテーマ）によって設問・選択肢の一部文言を変更している。

		●催事テーマに今後も積極的に取り組む必要がある／理解を深めたいと感じさせる内容でしたか ※一部催事で設問設定なし					
		もっと積極的に取り組みたい／理解を深めたいと感じられる内容だった	これまでの取組で充分と思える内容／既に充分理解している内容だった	取り組む必要性を感じられない内容だった／理解が深まったと感じなかった	よくわからない	設問なし※	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	32	0	0	1		0
	231106ローカルSDGsセミナー(n=11)	11	0	0	0		0
	231219信州の森フォーラム(n=16)	15	0	0	1		0
	240213中部カンファレンス(n=40)	36	2	1	1		0
	230701白書を読む会(n=105)	66	26	5	8		0
ESD 業務	230921NWフォーラム(n=10)	0	0	0	0	10	0
	231118ESDダイアログ(n=16)	14	1	0	0		1
	230829学び合い①(n=11)	10	0	0	1		0
	230904学び合い②(n=6)	6	0	0	0		0
	231125実践セミナー(n=4)	4	0	0	0		0
EPO業務・計(n=205)		160	28	6	11		0
ESD業務・計(n=37)		34	1	0	1		1
全体(n=242)		194	29	6	12		1

【今後参加してみたいイベント】 ※原文のまま掲載。

240214 北勢フォーラム	ゴミ問題 もっと地域を、地域の歴史を知れるもの 安全安心の循環の地域で 集まる場所の作り方 森林について 水質についての問題 地域コミュニティの課題と改善策について
231106 ローカルSDGs セミナー	SDGsに関する取り組みの失敗事例 SDGsを通じたステークホルダー間の連携 モニタリングの実践講座 他都市の方々と悩みを共有し、解決策を考えるのは心折れそうになりながらSDGsを進めている身としてはありがたいです。(悩みフォーラム・・・?)世界のSDGs状況が分かるセミナーなどがあると嬉しいです。
231219 信州の	ボイラーなど、森林のエネルギー利用に関して優良事例や国際的な動向を示すことに特化したフォーラムがあると、行政、民間含めて、非常に役立つ内容になるのではないかと存じます。

森フォーラム	人(特に住民)を森林に入れていく取り組みの紹介
	里山の維持管理について、自治体や地域での具体的な取り組みの事例発表の開催をお願いしたいです。
	例えば東急リゾートさんが行っている森林サービスについて、企画作成から実施までの段階を知りたい。
240213 中部カンファレンス	3R・サーキュラーエコノミーまたはゼロエミッション
	CN技術の社会実装に向けた 企業連携 産学官連携 国際連携などの推進について
	Jクレジットの創出事例に関するフォーラムに参加してみたいと思っています。
	サプライチェーン連携したカーボンニュートラル事例
	引続きカーボンニュートラル関連
	自然エネルギー利用の水素製造に関するセミナーをしてほしい
	水素・アンモニアの第2弾。CO2回収や再利用に関する取組や技術動向(e-methane/e-fuel)含む
	水素やアンモニアの功罪について、特に罪の方です。水素なんかは良いことしか言っていないように感じますが、その実は大きな落とし穴でもあるんじゃないかと心配です。(例えば出来た当初は安定で夢の熱媒体と言われたフロンが実はオゾン層を破壊したような話にならないと良いなあ、と思っています。)良いことばかりじゃない、とは思いませんか？
	水素関連技術の最新情報や取扱いに関する留意事項など
	脱炭素、再生可能エネルギーに関連したセミナー
	脱炭素燃料に関するルール・法改正など
230701 白書を 読む会	IPCC第6次報告書、プラスチックの世界的規制状況
	SDGsの掘りこんだ話が知りたいです。
	TNFDを学ぶ
	カーボンニュートラルに向けた企業の具体的な取り組みに対するインセンティブについて
	サステナブル・ファッションの実現に向けて私たちができることは何か
	ジェンダー社会
	すでに定着してしまった外来種への対応
	一般市民が環境問題に対してどのような行動を取ることが必要かについて詳しくお聞きしたいです。
	海の環境やマイクロプラスチックの問題対策について
	海洋のプラスチック問題
	外来種について、沢山の種類の生物をこの目で見ることができたり、危険性などをよりよく知れる機会があるとぜひ参加してみたいと思いました。
	外来生物の種類、それらの及ぼす被害、対策等をより深くできるセミナー等を開催していただきたいです。
	学校現場で持続可能な社会を実現するために少しでもできること
	個人でできる取り組みについて
	国立公園の現状の動向と問題点のセミナー
	今日は全体の概要を説明されたので、それぞれ優先順位をつけるなどして、重要なこと、日常生活に密着していることを切り出してより詳細に解説し、活動につなげるようにして活性化してほしい。
	産業廃棄物処理やリサイクル等、対象を絞ってその解説や動向を計画的にセミナーしていただきたい。
	持続可能なライフスタイル、自然環境を維持するために何ができ変化しなければならないのかを知りたい
	色んなところでやって欲しい
	生物的多様性
	脱プラスチック 3R等の詳細等、
	地域循環共生圏の事例報告 都市と周辺地域との連携事例
	地球温暖化の知識習得。
地方創生とのコラボや行動変容への実践的な取り組みが必要だと感じています。是非そうした事例紹介のセミナーや意見交換会などを開催して頂きたいと思います。	
230921 ネットワーク フォーラム	「お金・資産」の問題をもっと話し合いたかった！
	気候変動教育、ローカルとグローバルを結ぶ授業
	今回の話題に上がった、教師の専門的能力の育成については興味があります。
231118 ESDダイアログ	開催してほしいセミナーやフォーラムのテーマは「絶滅つ危険種など野生動物の生態とそれに関わる課題」などというテーマでセミナーやフォーラムを開催してほしい。
	開催してほしいのは芸術などの有名な絵や文化などのセミナーを開催してほしい
	森林鉄道は過去のものではなく、過去と未来をつなぐレールという言葉は非常によかったです。
	地域おこしをテーマにしてみたいです。
230829 学び合い①	ESDについて研究者、行政機関、企業、教員、学生参加によるセミナーやワークショップ
	企業としてのESDへの取り組み
	気候変動対策における緩和策と適応策に関する評価手法の開発について
	太陽光、風力発電等新エネルギーの製造～運用～廃棄にいたるまでのエネルギー収支 理系と文系の分断対策

230904 学び合 い②	ビジネスセクターにおける気候変動教育・ESDの取組み(考え方や実践例)
231125 実践セ ミナー	気候危機適応への対応として、自分の生活の中で、具体的に何をするかを決断し、実行するために必要なことをかかんがえられるような内容。

【末尾・自由記入欄の感想など】 ※原文のまま掲載。

240214 北 勢 フォー ラム	<p>いろんな立場の方とお話するつながる機会になりました</p> <p>これからも活動に参加して、循環共生の活動が活性化する事ができれば幸いです。</p> <p>ご準備運営お疲れ様でした！！素晴らしい内容でした！！</p> <p>とても勉強になりました</p> <p>ワークショップの時間がもっとあればなー</p> <p>参加されていたみなさまの熱意を感じられる有意義な時間でした</p> <p>廃止統合の幼稚園を「地域共生型交流拠点」として活用することを行政と交渉力であり、大いに参考になった。</p>
231106 ロ ー カル SDGs セミナー	<p>ありがとうございました。数値として見ることが出来るツールがあることが知れて良かったです。上司への説明や困ったときのアイデアをいただくために活用させていただきます。</p> <p>楽しかったです。原先生の見える化シートの他の種類も紹介してほしかったなあ・・と思いました。皆さんに知ってほしい！！</p> <p>今後自治体のみでなく地域全体での機運醸成のために教えていただいたツールもしっかりと活用していきたいと思いました。</p> <p>少しかけ足でしたが、たくさん情報を得られてよかったです。</p> <p>大変有益でした。</p>
231219 信 州 の 森フォー ラム	<p>そのまま活用とはいきませんが、面白い試みをしている人がいることが分かったことが収穫になりました。</p> <p>どうすることもできないと持ち主が思っている山々があります。よそ者に売りたくない思いもあります。でも、同じような山でよくなった事例があれば、少しは考えようとしてくれるのだと思います。その最初の一步は、焦っても急いでもいけない。ディスカッションでもあった通り、まずは信頼してもらうことなのだと思います。楽しいフォーラムでした。ありがとうございました。</p> <p>自治体の脱炭素化計画策定の支援コンサルをしています。柱の一つが森林施策ですが、職員の方から「間伐するのが精いっぱい。主伐はできない」と聞いています。本日のお話を聞き、森林を一括りにせず、経営に適した森林をゾーニングして、施策に盛り込む必要があると分かりました。</p> <p>小職、工学エンジニア出身で農学・林業には馴染みがなかったが、現在、個人的興味・関心事は「森林の価値化資産化・都市農地の油田化創エネ」。自分の出来ることから始めるとして、政策・施策への織込み、進め方など機会あればご相談に伺いたく。よろしく願います。</p> <p>担当している業務とは関連もなく、過去にも携わった内容でも無く、直接的な感想は述べられないが、伊那市として50年の森ビジョンがある中で、考えさせられる内容でありました。</p> <p>本日のフォーラムを聴講し、信州地区の皆様強い熱意を感じました。ありがとうございました。私の住む新潟県では、休眠状態の生産森林組合も多く、適期を迎えた人工林も主伐をされないまま、放置琳となっています。地球温暖化が進行する中、二酸化炭素を多く排出する高齢琳が増え、新たな植林もされず増々 心配です。</p> <p>様々な事例や考えを聞くことができ、よかったです。また、自分の考えの答え合わせのような時間にもなりました。取り組みとして、何が出来るかまだわからないですが、地域にとってよい森づくりに貢献できるとよいと思います。</p> <p>里山の持続的な管理は、思った以上に課題が多いことに驚きました。</p> <p>里山の保全が大切だとは思いますが、個人的には関わっていない。関われる機会が欲しい。一方、今回はあまりふれなかったが、これから国・自治体とそれに倣った財産区や民有林で進めようとしている主伐・再造林方式は、メリットよりデメリットが大きいと思う。</p> <p>皆伐という言葉は使っていないが、伐採の面積が大きすぎるため、長期間裸地になり、土砂流出、下の水源に影響する。実際に財産区の下流の住民が心配している。また、人手不足のためと、作業の時期が春から夏のため、植林作業と数年間にわたる下草刈り作業、つまり再造林は実際上、不可能と言えるのではないかとこの話を林業従事者から聞いている。</p> <p>手はかかっても、択伐方式にするのが、日本の豊かな自然を守ることになるのではないのでしょうか。経済よりも、森林の多面的機能を優先してほしいです。</p>
240213 中 部 カ ンファレ	<p>アンモニアの情報について大変参考となりました</p> <p>オンライン視聴でしたが、音声が悪く聞き取りにくかったので、マイクの音声を直接配信するなどした方が良いと感じた。</p>

<p>ンス</p>	<p>パネリストの方の企業名や個人の名前は正しく言うべきではないでしょうか。今回特に気になったのが日本郵船(にっぽんゆうせん)様のことを(にほんゆうせん)様と言っている方が多くみられました。特に司会の方は間違えてはいけないと思うのですが、現地で質問する方は仕方がないにしても司会の方やパネリストの方々の手元には企業名、個人の名前のふりがなをふった名簿リストを用意するのが良いと考えます。それが会場の壁にでも大きく印刷したふりがな入り名簿リストを貼っておくか。間違えられた方はいい気がしないと思いますので。</p> <p>官民の実務者による講演は聞きごたえがありますね。</p> <p>環境省、経産省、国交省、地元の愛知県といった水素社会実装に関連する方々からの講演を聴講でき、とてもよかったです。リモート環境が良くなかったところはありましたが予定通りの時間で終了でき、事務局の方々にも感謝申し上げます。</p> <p>関係する機関・企業の情報が共有される機会は非常に貴重で継続すると良いと思います</p> <p>貴重な機会を提供いただきましてありがとうございました。水素・アンモニアの拡大・実装に向けて、取り組んでいきたいと思っておりますし、また官民の連携が必要不可欠と考えていますので引き続きこのような機会をご検討いただければと思います。</p> <p>国や企業の取り組み内容について、現在の情報を聞くことができて良かった。</p> <p>参加して非常に良かったです。水素の話をもとに目的として参加しましたが、アンモニアの取組み推進が理解でき新たな気付きとなりました。ありがとうございました。</p> <p>参加する機会があつて良かったと思います。</p> <p>上に書かせていただきました。</p> <p>水素・アンモニアの導入に関しての理解が深まりました。</p> <p>水素やアンモニア等の実装が着実に進んでいると感じました。</p> <p>登壇者の顔ぶれが的確。今後、低炭素/脱炭素燃料の利用者・需要家の取組みも聞いてみたい。</p> <p>当社で取組み脱炭素事業を進める上で、今後は個別にコンタクトし相談させて頂きたいと存じます。</p> <p>日本の中での水素・アンモニアが重視されていることが理解できた</p> <p>良かった</p>
<p>230701 白書 を読む 読む会</p>	<p>「温室効果ガスの排出は全体の約6割が家計によるものでありカーボンニュートラル達成のためには、今までの慣れ親しんだライフスタイルを変える必要がある」という考え方は本当に大事で、今後の人間の課題であると思った。誰もが今日から始められる対策としては、節電をすることであると思う。例えば、テレビをつけっぱなしにしない、お風呂でシャワーを出しっぱなしにしないなどがあげられる。こういったことを一人一人が少しずつでも気をつけることが、生物の生きる時間を少しでも長くし、未来を大きく変えていくことに繋がるので、今すぐ実行していくことが大切だと思う。今すぐにはなくても変えていけるとよい対策は、ガソリン車に乗るのをやめて、プラグインハイブリッド車や燃料電池自動車などの電動自動車へと変えていくことが大切だと思う。車は今すぐに変えることができないので明日からは難しいかもしれないが、数十年後の未来には電動自動車が当たり前になっている世界になってほしいと思う。</p> <p>また、線形経済から循環経済への移行についての話で、ファッションの大量廃棄についてがあげられたことが強く印象に残っている。現代は多くのファッションが流行っており、服を買う人も多くなっているなかで、大量廃棄の問題があげられることにはとても納得した。最近よく言われる「サステナブル・ファッション」の実現について調べたとき、長く着られる仕組みづくりをしていることがわかった。それを見て、ファッション関連企業だけでなく、買う側も長く着ていくことを意識していくことが「サステナブル・ファッション」の実現に近づいていく方法ではないかと思う。</p> <p>ESDの授業を学んでいることで、生物多様性について、よく知ることができた。</p> <p>PDFで見ただけでは分かりずらかった環境白書をわかりやすく説明しながら解説していただけてよかったですと思いました。</p> <p>ZOOM環境で、チャット機能を使用して質問をできなかったのが残念です。また、質疑応答時間を余裕を持たせてほしい</p> <p>ありがとうございました</p> <p>こういった環境についてのイベントに参加するのは初めてです。授業で習ったことや知らなかったことなどの発見が見られて面白かったです。</p> <p>このような取り組みがあるのを、今年初めて知りました。環境省で気候変動探偵局 生き物大移住計画を調査せよ！中部7県広域ミッション2023というも行われているようなのも今年知りました。地球温暖化防止活動推進員として、環境省様の動きを子供たちや地域の人たちに知ってもらうためにもっと知らねばと思っています。</p> <p>これら全てを自分なりに理解することは非常に難しい課題が多いと感じた。</p> <p>コンパクトに白書がまとめられていて、飽きずに聞けるのが良かった</p> <p>すごく良い経験になりました。</p> <p>ためになった</p> <p>ためになりました</p> <p>ちょっと難しかったけど、地球のためになるなおもえる講義があった</p> <p>とてもわかりやすく細かい説明です理解できた。</p> <p>とてもわかりやすく、勉強になりました。これからの活動に活かしていきたいと思っております。</p> <p>とても面白い内容だった。</p> <p>ネイチャーポジティブ経済移行戦略の公表を楽しみにしています。</p>

ヒアリについて最近ニュースになっていなかったが定着寸前になっているのには驚いた
ユーチューブでも公開しているとのことで、後日一定時間でよから再録してほしい
愛知県の「観光まちづくり」でSDGsな旅がテーマになってます。本日の白書を参考にどんな事ができるのか、企画を完成させたいと考えてます。
遠くにあった環境白書が、身近になる機会を作っていただき感謝します。
何も知らなかった基盤に芽が生えたような気持ちです。そこからどんどの知識を大学生活の中で蓄えていきたいと思えます
各白書のエッセンスを知ることができました。ありがとうございました。
環境について深く考えたことがなかったので、様々な活動を知ることができてよかった。
環境再生・資源循環局の大井様の説明が大変分かりやすかったです。理解を深めるため、今後も知識習得に励みたいと思いました。また、個人で意識して取り組める3Rについては、徹底して取り組んで参ります。本日は誠にありがとうございました。
環境省が生物多様性も共生の事についてちゃんと考えていてすごいと思った。大雨や熱中症など地球温暖化が原因でいろんなことが起こってしまっている中でなんとかその気候変化を遅らせられないかと考えているのはとてもすごいと思った。
環境省の方からお話を聞ける機会がなかなかなく自分自身を成長できる知識があったのでとても貴重な体験をさせていただいたと思いました。
環境白書について少し理解することが出来て良かった。
環境白書について詳しく学ぶことが出来て良かったです。環境問題についてはまだまだたくさんの課題があることがわかったので問題を解決していけるように努力していきたいです
環境保全のために様々な取り組みが行われていると知れて楽しかった
貴重なお話をありがとうございました。
知らないお話が多く少し混乱してしまったりもりましたが、現状何をすればいいのが見えてきました。
貴重な機会を設けて頂きまして有り難うございました。資料などを順番に読み上げるのも大事ですが、もう少し各シートで一番言いたい事などを強調して頂けると、さらに良かったかもしれません。生意気な意見で申し訳ございません。感謝です。
貴重な時間をありがとうございました。
教科書などではない内容を聞いて尚且つ質問をする場を設けていて貴重な1時間になりました。また私は質問をできなかったのでまだ知識不足だなと感じる会になりました。
現在や、未来の国の取り組みが良くわかって有意義だった。
言葉が難しいことが多かったのもっと噛み砕いた説明だったら誰しものが理解しやすいと思った。
高校の時クリエイト部に参加していたので自然環境に興味があったので色々しれてよかった。
国内の環境の現状、課題、対策、それらを通した未来の目標を細かく知ることが出来ました。より環境について調べ、個人でできる環境課題への対策をしていきたいと思われました。
今まで聞いた事ない内容を聞く事ができてとても良かったです。
今回は満足のいく形での参加ではなかった為また機会があれば、参加してみたいと感じた。
今後もこの様な企画お願い致します。
今後もこの様な企画をお願い致します。
私は地球環境、特に地球温暖化に興味があるので、とても面白かったです。
お父さんも興味あるので家帰ったからお話しました！！貴重な経験をありがとうございました。
自分ではわからない内容を沢山学べ、普段調べないような細やかなことを知れてよかった。
自分の興味ある分野の深いところまで学べた。
自分の視野では見られなかった観点からSDGIについてしることができて良かったです。ありがとうございました。
自分の知らなかった事を知れていい経験を学校でさせてもらえました。
自分の調べた事では知らない事が今回の担当者の方々から詳しく聞けたよい機会だと思いました。
質問に対する回答が抽象的と感じた。具体的事例で返答された方が良い。
少ない時間ながら、全体を俯瞰できました。大変ありがとうございました。質問もさせて頂きましたが、都市部への野生動物侵入などのアーバン・アニマル問題は深刻な状況にあり、それが生物多様性保全に対してのネガティブな要因にならないよう、施策が必要ではないかと考えております。また、本来の保全が活動は自然に対して積極的に人の手が入ることを想定しているため、野生動物の行動も変わる可能性があります。そうした方面での科学的知見の集積も急務であると感じております。今後の動向を注視して参りたいと思えます。
凄く新たな発見が多かったです。ためになる貴重な時間をありがとうございました。
大学の講義だけでは分からなかったことが環境白書執筆に携わった方から詳しいお話を伺うことができてよかった
知らないことが多く、授業で習っているものはもんの一部に過ぎなかったんだと感じました。
内容がまだ理解しきれずで自分の知識が足りないと感じました。
内容が豊富なため開催時間を長くしていただければと思います。
日常的に聞くことができないような単語や情報を聞いて難しいなと感じましたがとても有意義な情報を聞けたりできたのでとてもためになりました。

	<p>年々、地球温暖化や気候変動が増加しているように感じる。それにより、各地域で雨による災害が多くなっていると思う。どうしたら地球温暖化などを改善していけるかを考えていきたい。</p> <p>白書を読む会は、pdfに書いてあることのみでの説明で補足や具体例などがほとんど無いような状態だったのでわかりづらく、想像しづかった</p> <p>普通に過ごしていたらあまりみる機会のないものをわかりやすく説明していただきありがとうございました。</p> <p>分かりやすい説明でありがたかった</p> <p>勉強不足な部分が多々あったので、今回の資料にもう一度目を通し復習しつつ、環境について考えていきたいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>本日の会において、普段あまり聞くことの無いバイオマスにおいても目標が掲げられており、国に頼りきりではなく、私たちの日常生活も環境に適応した生活にする必要があるのだなと感じました。</p> <p>本日はありがとうございました。</p> <p>思っていたより地球温暖化が深刻なことがわかりました。いずれみんなで一丸となって地球温暖化を止められたらなと思いました。</p> <p>本日は貴重なお話をしていただきありがとうございました。環境に対する新たな取り組みを知ることができ、非常に有意義な時間となりました。</p>
230921 ESD ネットワーク フォーラム	<p>ESDについて多方面からの発表があり、とても勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。どこの学校でも総合的な学習は実践しているのに、なぜESDが広まらないかということについては、私も疑問に感じているところでした。教員の異動による取組の衰えということも話題が上がっていましたが、取組だけではなく、教員の異動のたびにESDの考えから始めなくてはならないジレンマを感じています。</p> <p>クラウドファンディング、興味高めました。SDGs・ESDについてもっと学ばなければ…VS働き方改革 行政・現場・企業など今後よりよい社会になるために意見を交わし話を聞くのはたのしかったです。</p> <p>各講師からのお話は想像以上の素晴らしい取り組みが紹介され大変良かったと思えます。</p> <p>学校・行政・企業等がつながっていくことでESDをより深く広く推進していけると感じました。たくさんつながりをもって現場での活動を支援していきたいと思えました。ありがとうございました。</p> <p>学校だけでなく、地域の団体や企業の取組も知ることができてよかった。</p> <p>学校に対して学習材やコンテンツを提供する団体側の交流という観点で、期待される効果があったと思えます。後は文科省側の参加もあれば、より議論が深まるかと思えます。</p> <p>九州地方との共通の課題感覚が多数あることがわかり、意見交換のパートでも同様の感覚を持ちました。地域の実践者の皆様のご活躍を祈念いたします。</p> <p>生徒・子どもの主体性を活かしてSDGsを自分事にして、地域の人たちを巻き込んだ実践例・事例の紹介があって感銘しました。特に企業の実践は目を見張るものでした。最後の拠点での話し合いがみなさんの本音も出て内容が濃く面白く思いました。拠点でない外部の人の意見が新鮮で内部の人の意識が変わることがあるように思えた。</p> <p>本音トークの時間の設定が良かった。</p> <p>これから有効に必要な学術的な知見が浮かびあがる工夫</p>
231118 ESDダイ アログ	<p>ESDはいままで聞いたこともない単語だったけど今回の講演でSDGsとはまた違う重要性やそのESDや自分たちの地域と自然との向き合い方を他人事ではなく自分事として学べることが良かったです。他にも私がまだ知らない遠山郷エコジオパークフィールドスタディの魅力や身近であまりわかっていたジオパークや他県・周りのジオパークのおもしろさを知れてとても有意義な時間になりました。この講演を通して知ってそうで知らなかった長谷の地域的な重要性や大鹿村の大鹿歌舞伎など地域の人々が一丸となって盛り上げていく心にこの話がたくさんありました。ありがとうございました。</p> <p>たくさん地域の事例を知れて有意義な時間だった</p> <p>遠山郷エコジオパークフィールドスタディでは天文学の「隕石は宇宙からの手紙」というのがすごくきになるのでこういうのにも積極的に参加したいです。あと中学3年生のやっていたかぶきのようなものは私すきなにつけてほしいと思えました。</p> <p>今日色々な人の発表を聞いて色々な事を知れて良かったです。僕たちの発表はどうがらしの話を話しましたが緊張しなくても気軽に発表できてとてもうれしく思います。</p> <p>自分はジオパークは意識したことがなかったので、これから意識していきたいです。活動報告では地域によっていろいろな文化があり、文化で地域を盛り上げるとことは参考になりました。南アルプスの山はたくさん山があり、山を守るための活動を大切にしていることが分かりやすかったです。</p> <p>自分自身ずっと長野県に住んでいるのですが、全然知らなかった事や長野県がこんなにSDGsに取り組んでいることを知りました。まだまだ知らないことがたくさんあると思うので、どんどんこのような会に参加していこうと思いました。</p> <p>色々な方々の発表を聞いて新たな考えを感じられました。</p> <p>中学生や大学生の取り組みとその成果の報告にたいへん感動した。</p>
230829 学 び 合 い①	<p>お二方からの現在進行形の知見をいただき、刺激と学びの機会を得ることができました。</p> <p>開催前に先生の発表資料を公開していただけたらと、内容をより理解しやすいと思えます。</p> <p>合意形成は大変な事を改めて認識した</p> <p>若手にフロントランナーになりたいと考えている人が見あたらないのが心配</p>

	<p>初めて気候変動教育と言う言葉を知ることになりました。内容が気候変動問題に留まらない、社会課題あるいはSDGsそのものであると認識しました。そういう意味でチャットで気候変動教育の名称が適切かと投稿しました。無知な者が勝手なことを言ってしまったのですが、社会に広まっていくにはネーミングも大切だと思います。講演終了後に佐藤先生座長の資料を勉強させていただきました。</p> <p>理論的な背景をたくさんお話いただき、実践の参考になりました。情報量が多かったので、後程いただいた資料も参照しながらふりかえりたいと思います。</p> <p>話にしっかりついて行けず、消化しきれていないです。 特に佐藤先生は早口だったので。</p>
230904 学び合 い②	<p>今回の気候変動だけに限らず、学校教育が社会に開かれて運動していける場となり未来を語りあえると素晴らしいことが伝わり希望が持てました。(元教員)</p> <p>今回初めてこのプログラムに参加しました。 私は子どもが自分らしく豊かに育つことを目的にNPO活動をしており、子ども達が住むまちや環境についても大切に考えています。それを子どもと話せる時間があるといいなとも考えております。実践編でとても有意義なお話でした。感謝申し上げます。</p>

《参考》回答者の属性の集計結果

		●年齢 ※一部催事で設問設定なし									
		10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	設問なし※	不明	
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	1	3	1	7	6	8	5		2	
	231106ローカルSDGsセミ ナー(n=11)	0	3	2	5	1	0	0		0	
	231219信州の森フォー ム(n=16)	0	2	0	6	3	3	2		0	
	240213中部カンファレンス (n=40)	0	3	8	8	16	4	1		0	
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	105	0	
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	10	0	
	231118ESDダイアログ (n=16)	6	2	0	1	2	2	2		1	
	230829学び合い① (n=11)	0	0	1	2	3	2	2		1	
	230904学び合い② (n=6)	0	0	0	0	3	2	1		0	
	231125実践セミナー (n=4)	0	0	1	0	1	1	1		0	
EPO業務・計(n=100)		1	11	11	26	26	15	8		2	
ESD業務・計(n=37)		6	2	2	3	9	7	6		2	
全体(n=137)		7	13	13	29	35	22	14		4	

		●所属先 ※一部催事で設問設定なし							設問なし※	不明
		NPO・NGO・ 任意団体	企業・事業 者	行政機関	学校・教育 関係	学生	その他			
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	7	7	6	0	1	10		2	
	231106ローカルSDGsセミ ナー(n=11)	0	0	11	0	0	0		0	
	231219信州の森フォー ム(n=16)	2	5	6	1	0	2		0	
	240213中部カンファレンス (n=40)	1	29	6	0	2	1		1	
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	105	0	
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	10	0	
	231118ESDダイアログ (n=16)	1	1	4	1	7	2		0	
	230829学び合い① (n=11)	1	3	0	2	0	4		1	
	230904学び合い② (n=6)	2	1	1	0	0	2		0	
	231125実践セミナー (n=4)	0	0	0	2	0	2		0	
EPO業務・計(n=100)		10	41	29	1	3	13		3	
ESD業務・計(n=37)		4	5	5	5	7	10		1	
全体(n=137)		14	46	34	6	10	23		4	

		●活動分野のSDGs ※一部催事で設問設定なし									
		1. 貧困をなくそう	2. 飢餓をゼロに	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	5. ジェンダー平等を実現しよう	6. 安全な水とトイレを世界中に	7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに	8. 働きがいも経済成長も	9. 産業と技術革新の基礎をつくらう	10. 人や国の不平等をなくそう
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	4	2	4	6	5	4	7	5	5	8
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	4	4	5	6	4	4	8	5	5	5
	231219信州の森フォーラム (n=16)	0	1	4	2	2	3	9	4	3	3
	240213中部カンファレンス (n=40)	2	0	2	3	5	5	26	11	13	3
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	0	0	1	4	0	1	0	0	0	1
	230829学び合い① (n=11)	0	0	3	6	0	1	5	0	2	0
	230904学び合い② (n=6)	0	2	2	3	3	0	3	1	1	1
	231125実践セミナー (n=4)	1	0	1	2	1	0	1	1	0	1
EPO業務・計(n=100)		10	7	15	17	16	16	50	25	26	19
ESD業務・計(n=37)		1	2	7	15	4	2	9	2	3	3
全体(n=137)		11	9	22	32	20	18	59	27	29	22

		11. 住み続けられるまちづくりを	12. つくる責任、つかう責任	13. 気候変動に具体的な対策を	14. 海の豊かさを守ろう	15. 陸の豊かさを守ろう	16. 平和を公正をすべての人に	17. パートナリシップで目標を達成しよう	設問なし※	無回答
EPO 業務	240214北勢フォーラム (n=33)	12	8	13	12	10	3	10	0	11
	231106ローカルSDGsセミナー (n=11)	8	8	9	6	8	4	7	0	1
	231219信州の森フォーラム (n=16)	10	2	10	5	10	2	4	0	0
	240213中部カンファレンス (n=40)	10	9	26	17	13	1	7	0	3
	230701白書を読む会 (n=105)	0	0	0	0	0	0	0	105	0
ESD 業務	230921NWフォーラム (n=10)	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	231118ESDダイアログ (n=16)	8	5	5	2	7	0	2	0	4
	230829学び合い① (n=11)	4	5	6	4	5	0	4	0	1
	230904学び合い② (n=6)	2	4	3	4	4	2	3	0	0
	231125実践セミナー (n=4)	2	1	2	0	0	0	1	0	1
EPO業務・計(n=100)		40	27	58	40	41	10	28	0	15
ESD業務・計(n=37)		16	15	16	10	16	2	10	0	6
全体(n=137)		56	42	74	50	57	12	38	0	21

令和5（2023）年度
中部環境パートナーシップオフィス運営業務
年間報告書

2024年3月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889
URL：<http://chubu.env.go.jp>

作成：中部環境パートナーシップオフィス

（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル 4階
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606
URL：<http://www.epo-chubu.jp>

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。